

# 国立大学法人岩手大学学則（案）

（平成16年4月1日制定）

## 目次

### 第1章 総則

- 第1節 目的（第1条）
- 第2節 構成（第2条－第9条）
- 第3節 役員（第10条）
- 第4節 職員（第11条－第16条）
- 第5節 役員会、教育研究評議会、経営協議会等（第17条－第24条）
- 第6節 事務組織及び技術支援組織（第25条・第26条）
- 第7節 教育研究等の状況の公表等（第27条）
- 第8節 自己評価等（第28条・第28条の2）
- 第9節 男女共同参画（第28条の3・第28条の4）

### 第2章 学部通則

- 第1節 修業年限、在学期間等（第29条・第30条）
- 第2節 学年、学期及び休業日（第31条－第33条）
- 第3節 収容定員等（第34条）
- 第4節 教育課程（第35条－第46条）
- 第5節 入学、卒業、転学、留学、休学、復学及び退学等（第47条－第60条）
- 第6節 教育職員免許（第61条）
- 第7節 検定料、入学料及び授業料（第62条－第67条）
- 第8節 表彰、除籍及び懲戒（第68条－第70条）

### 第3章 補則

- 第1節 学生証（第71条）
- 第2節 健康診断（第72条・第73条）
- 第3節 福利厚生施設（第74条）
- 第4節 科目等履修生、研究生及び特別聴講学生（第75条－第77条）
- 第5節 外国人留学生（第78条）
- 第6節 研修員等（第79条・第80条）
- 第7節 公開講座及び科学教育研究室（第81条・第82条）

### 附則

#### 第1章 総則

##### 第1節 目的

（目的）

第1条 国立大学法人岩手大学（以下「本学」という。）は、真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを旨すとともに、社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会と国際社会の文化の向上と発展に貢献することを目的とする。

2 本学は、学部、学科又は課程ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。

##### 第2節 構成

（学部）

第2条 本学に次の学部を置く。

人文社会科学部  
教育学部  
理工学部  
農学部

(学科及び課程)

第3条 各学部に学科又は課程を次のとおり置く。

学 部	学科又は課程
人文社会科学部	人間文化課程
	地域政策課程
教育学部	学校教育教員養成課程
理工学部	化学・生命理工学科
	物理・材料理工学科
	システム創成工学科
農学部	植物生命科学科
	応用生物化学科
	森林科学科
	食料生産環境学科
	動物科学科
	共同獣医学科

(大学院)

第4条 本学に大学院を置く。

2 前項の大学院に次の研究科を置く。

人文社会科学研究科 修士課程  
教育学研究科 専門職学位課程 (教職大学院の課程)  
工学研究科 博士前期課程  
博士後期課程  
農学研究科 修士課程  
連合農学研究科 博士課程

3 大学院の学則は、別に定める。

(教育研究施設)

第5条 本学に次の教育研究施設を置く。

地域防災研究センター  
自然災害解析部門  
防災まちづくり部門  
災害文化部門  
平泉文化研究センター  
考古学的研究部門  
文献学的研究部門  
教育・地域貢献部門  
三陸水産研究センター  
水圏環境部門  
水産・養殖部門  
新素材・加工技術部門  
マーケティング戦略部門

2 前項の教育研究施設に関する規則は、別に定める。

第6条 削除

(教育研究推進施設)

第7条 本学に次の教育研究推進施設を置く。

教育推進機構

教養教育センター

グローバル教育センター

教育推進連携部門

学生支援部門

キャリア支援部門

研究推進機構

プロジェクト推進部門

研究基盤管理・機器分析部門

地域連携推進機構

地域連携部門

生涯学習支援部門

ミュージアム部門

入試センター

教員養成支援センター

情報基盤センター

保健管理センター

R I 総合実験センター

図書館

2 前項の教育研究推進施設に関する規則は、別に定める。

## 第7条の2 削除

(三陸復興推進機構)

第7条の3 三陸沿岸地域等の復興を支援し、推進するため、三陸復興推進機構を置く。

2 前項の三陸復興推進機構に関する規則は、別に定める。

(国際連携室)

第7条の4 本学の国際連携を推進するため、国際連携室を置く。

2 前項の国際連携室に関する規則は、別に定める。

(学部附属の教育研究施設)

第8条 本学に次の学部附属の教育研究施設を置く。

人文社会科学部 こころの相談センター

教育学部 附属教育実践総合センター

附属自然観察園

理工学部 附属融合化ものづくり研究センター

金型技術研究部門

鋳造技術研究部門

複合デバイス技術研究部門

附属ソフトパス工学総合研究センター

附属ものづくりエンジニアリングファクトリー

農学部 附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター

附属動物病院

附属寒冷バイオフィロンティア研究センター

附属動物医学食品安全教育研究センター

附属生物環境制御装置室

附属植物園

附属農業教育資料館

附属自然エネルギー利用温室

- 2 前項の学部附属の教育研究施設に関する規則は、別に定める。  
(附属学校)

第9条 教育学部に次の附属学校を置く。

附属幼稚園  
附属小学校  
附属中学校  
附属特別支援学校

- 2 前項の附属学校に関する規則は、別に定める。

第3節 役員

(役員)

第10条 本学に次の役員を置く。

一 学長  
二 理事  
三 監事

第4節 職員

(職員)

第11条 本学に次の職員を置く。

教員(教授、准教授、助教、副園長・副校長、主幹教諭、教諭及び養護教諭をいう。)、  
事務職員、専門職員、技能職員及び医療職員

2 前項の教員(副園長・副校長、主幹教諭、教諭及び養護教諭を除く。)は次の学系に  
所属する。

人文科学系  
社会科学系  
教育学系  
芸術・スポーツ学系  
物質機能・エネルギー科学系  
システム理工学系  
環境科学系  
基礎自然科学系  
応用生命科学系  
動物医科学系  
全学施設系

- 3 前項の学系に関する規則は、別に定める。

(副学長)

第12条 本学に副学長を置き、第10条に規定する理事のうち、教育研究に関する業務  
を担当する者をもって充てる。

- 2 前項に規定するもののほか、本学の意思決定と執行を円滑に行うため、副学長を置く  
ことができる。

(学部長及び副学部長)

第13条 各学部に学部長を置く。

- 2 前項の学部長を補佐するため、各学部に副学部長を置く。

(教育研究施設の長)

第13条の2 教育研究施設に長を置く。

(教育研究推進施設の長)

第14条 教育研究推進施設に長を置く。

## 第14条の2 削除

(三陸復興推進機構長)

第14条の3 三陸復興推進機構に機構長を置く。

(学部附属の教育研究施設の長)

第15条 学部附属の教育研究施設に長を置く。

(附属学校の校長等)

第16条 附属学校に園長又は校長を置く。

## 第5節 役員会、教育研究評議会、経営協議会等

(役員会)

第17条 本学に、本学の意味決定と執行に責任を持つ機関として役員会を置く。

2 前項の役員会に関する規則は、別に定める。

(教育研究評議会)

第18条 本学の教育研究に関する重要事項について審議するため、教育研究評議会を置く。

2 前項の教育研究評議会に関する規則は、別に定める。

(経営協議会)

第19条 本学の経営に関する重要事項について審議するため、経営協議会を置く。

2 前項の経営協議会に関する規則は、別に定める。

(学長選考会議)

第20条 本学に、学長選考会議を置く。

2 前項の学長選考会議に関する規則は、別に定める。

(学長・副学長会議)

第21条 本学の意味決定と執行を円滑に行うため、学長・副学長会議を置く。

2 前項の学長・副学長会議に関する規則は、別に定める。

(部局長会議)

第22条 教育研究評議会の議題整理、学部等間の関係に係る重要事項についての連絡調整に当たるほか、第24条の規定に基づき設置される委員会の所掌に属さない事項を審議するため、部局長会議を置く。

2 前項の部局長会議に関する規則は、別に定める。

(教授会)

第23条 本学の各学部に教授会を置く。

2 前項の教授会に関する規則は、別に定める。

(学科会議、課程会議及び学系会議)

第23条の2 第3条に規定する学科又は課程に学科会議又は課程会議を、第11条第2項に規定する学系に学系会議を置く。

2 前項の学科会議、課程会議及び学系会議に関する規則は、別に定める。

(委員会)

第24条 本学に、専門的な観点から全学の意味形成に資するため、必要な委員会を置く。

2 前項の委員会に関する必要な事項は、別に定める。

## 第6節 事務組織及び技術支援組織

(事務組織)

第25条 本学における企画立案事務、教育研究支援事務及び管理事務等を行うため、事務局及び各学部等に事務組織を置く。

2 前項の事務組織に関する規則は、別に定める。

(技術支援組織)

第26条 本学における教育研究の技術支援を行うため、技術支援組織を置く。

2 前項の技術支援組織に関する規則は、別に定める。

#### 第7節 教育研究等の状況の公表等

(教育研究等の状況の公表等)

第27条 本学は、本学の教育研究、組織運営及び財務の状況を公表(情報提供を含む。)するものとする。

2 前項の公表に当たっては、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって行うものとする。

#### 第8節 自己評価等

(自己評価等)

第28条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究、組織運営及び施設設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価の項目並びに実施体制については、別に定める。

3 第1項の点検及び評価の結果については、本学の職員以外の者による検証を行うよう努めるものとする。

(評価室)

第28条の2 本学に、教育研究等の活動状況について点検及び評価の実施並びに中期目標・中期計画の取り組みを行うため、評価室を置く。

2 前項の評価室に関する規則は、別に定める。

#### 第9節 男女共同参画

(男女共同参画)

第28条の3 本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における男女共同参画を推進するものとする。

(男女共同参画推進室)

第28条の4 本学に、男女共同参画の推進に関する具体的事業を企画・立案・実施するため、男女共同参画推進室を置く。

2 前項の男女共同参画推進室に関する規則は、別に定める。

### 第2章 学部通則

#### 第1節 修業年限、在学期間等

(修業年限、在学期間等)

第29条 本学の修業年限は、4年とする。ただし、農学部共同獣医学科については、その修業年限は、6年とする。

2 本学の科目等履修生として一定の単位(学校教育法(昭和22年法律第26号)第90条の規定により入学資格を有した後、修得したものに限り。)を修得した者が本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、修得した単位数その他の事項を勘案して本学が定める期間を修業年限の2分の1を超えない範囲で修業年限に通算することができる。

3 在学期間は、修業年限の2倍を超えることはできない。

(在学期間の特例)

第30条 本学に3年以上在学した者（農学部共同獣医学科に在学するものを除く。）が、卒業の要件として本学の定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、前条第1項本文の規定にかかわらずその卒業を認めることができる。

## 第2節 学年、学期及び休業日

（学年）

第31条 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

2 前項に規定する学年の途中においても、学期の区分に従い、入学させ及び卒業させることができる。

（学期）

第32条 学年を2学期に分け、前期は4月1日から9月30日まで、後期は10月1日から翌年3月31日までとする。

（休業日）

第33条 休業日は、次のとおりとする。

- 一 日曜日及び土曜日
- 二 国民の祝日に関する法律に規定する休日
- 三 夏季休業 8月5日から9月30日まで
- 四 冬季休業 12月24日から翌年1月7日まで
- 五 春季休業 卒業式の翌日から3月31日まで

2 学長が必要と認めるときは、前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 第1項に定めるもののほか、学長が必要と認めるときは、臨時の休業日を定めることができる。

## 第3節 収容定員等

（収容定員等）

第34条 各学部の学科又は課程の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学科又は課程	入学定員	3年次編 入学定員	収容定員
人文社会科学部	人間文化課程	125名	10名	500名
	地域政策課程	75名		300名
	計	200名	10名	820名
教育学部	学校教育教員養成課程	160名		640名
	計	160名		640名
理工学部	化学・生命工学科	90名	20名	360名
	物理・材料工学科	80名		320名
	システム創成工学科	270名		1,080名
	計	440名	20名	1,800名
農学部	植物生命科学科	40名	5名	160名
	応用生物化学科	40名		160名
	森林科学科	30名		120名
	食料生産環境学科	60名		180名
	動物科学科	30名		120名
	共同獣医学科	30名		180名
	(東京農工大学農学部共同獣医学科)	(35名)		(210名)
計	210名	5名	930名	
備考 ( ) は、本学と共同獣医学科を設置している東京農工大学農学部共同獣医学科の入学定員及び収容定員であり、外数とする。				

## 第4節 教育課程

(教育課程の編成)

第35条 本学は、大学、学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を設定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部及び学科又は課程等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう配慮するものとする。

3 教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して編成するものとする。

(特別の課程の編成)

第35条の2 本学は、前条に規定するもののほか、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成することができる。

2 前項の特別の課程に関する規則は、別に定める。

(教育体系)

第36条 本学における教育体系は、一貫教育の観点から全学共通教育及び共同獣医学科の共通教育並びに専門教育とし、全学共通教育には全学共通教育科目を、共同獣医学科の共通教育には共通教育科目を、専門教育には専門教育科目を置くものとする。

2 全学共通教育及び共同獣医学科の共通教育（以下「全学共通教育」という。）は、全学体制で実施し、本学の教員は全学共通教育の実施・発展に努め、担当する責任を負うものとする。

3 専門教育は、各学部の責任において実施する。

4 全学共通教育に関し必要な事項は、別に定める。

5 専門教育に関し必要な事項は、各学部が定める。

6 第1項に定める科目のほか、国際交流科目を置くものとし、必要な事項は、別に定める。

(学生の修得すべき単位数)

第37条 学生が修得すべき単位数は、別表1のとおりとする。

(単位の計算方法)

第38条 授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

一 講義については、毎週1時間15週の授業をもって1単位とする。

二 演習については、毎週2時間15週又は毎週1時間15週の授業をもって1単位とする。

三 実験、実習及び実技については、毎週3時間15週又は毎週2時間15週の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらの必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

3 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、第1項に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもって1単位とする。

(授業の方法)

第39条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利



用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 前2項の授業は、外国において履修させることができる。

(成績評価基準等の明示等)

第39条の2 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第39条の3 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(単位の授与)

第40条 科目を履修した場合には、成績を審査し、合格した者に対して所定の単位を与える。

2 成績の審査は、試験、報告書、論文及び平常の成績によって行う。

3 成績の評価は、秀、優、良、可及び不可とし、秀、優、良及び可を合格、不可を不合格とする。

(履修科目の登録の上限)

第41条 本学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。

2 所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

3 前2項に関し必要な事項は、別に定める。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第42条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、第55条の規定による留学の場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第43条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第44条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により、修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第42条及び前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(遠隔授業により修得することができる単位数)

第45条 第39条第2項の授業の方法により修得することができる単位数は60単位を超えないものとする。

2 前項の規定にかかわらず、124単位を超える単位数を卒業の要件としている学科・課程においては、第39条第2項の授業の方法により64単位以上を修得しているときは、60単位を超えることができる。

(長期にわたる教育課程の履修)

第46条 学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 長期にわたる教育課程の履修に関する規則は、別に定める

## 第5節 入学、卒業、転学、留学、休学、復学及び退学等

(入学資格)

第47条 本学に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 高等学校を卒業した者

二 中等教育学校を卒業した者

三 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が指定する日以後に修了した者

四 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者

五 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

六 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

七 文部科学大臣が指定した者

八 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

九 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、18歳に達したもの

(入学志願の手続)

第48条 入学を志願する者は、所定の期間内に別に指定する関係書類に、検定料を添えて本学に提出しなければならない。

(合格者の決定)

第49条 学長は、前条の入学志願者について、選考の上合格者を決定する。

(入学の手続)

第50条 合格者は、所定の期間内に別に指定する関係書類に入学料を添えて本学に提出しなければならない。

(入学の許可)

第51条 学長は、前条の手続を経た者に対し、入学を許可する。

(卒業の認定)

第52条 学長は、所定の修業年限以上在学し、かつ所定の科目の単位を修得した者に対し、教授会の審議を経て卒業を認定する。

(学位の授与)

第53条 前条の規定により卒業を認定された者には、学士の学位を授与する。

2 前項に規定するもののほか、学位の授与については、別に定める。

(履修証明の交付)

第53条の2 本学は、第35条の2の規定により特別の課程を修了した者に対し、その修了を認定し、修了の事実を証する証明書を交付する。

(転学部)

第54条 本学の他の学部に転学部を志願する者があるときは、選考の上許可することができる。

2 前項の転学部について必要な事項は、別に定める。

(転学科及び転課程)

第54条の2 同一学部の他の学科又は課程に転学科又は転課程を志願する者があるときは、選考の上許可することができる。

2 前項の転学科及び転課程について必要な事項は、別に定める。

(留学)

第55条 本学が教育上有益と認めるときは、外国の大学又は短期大学との協議に基づき、学生が当該大学又は短期大学に留学することを許可することができる。

2 留学の期間は、第29条第1項に規定する修業年限に含めるものとする。

(休学)

第56条 疾病その他の事由により、3月以上修学できない者は、休学願を提出し、学長の許可を得るものとする。

2 疾病のため、修学が不相当と認められる者に対して、学長は、休学を命ずることができる。

3 第1項の休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、願い出により引き続き休学することができる。

4 休学期間は、通算して第29条第1項に規定する修業年限を超えることはできない。

5 前項の休学期間は、第29条第1項に規定する修業年限に含まない。ただし、第29条第3項に規定する在学期間を含むものとする。

(復学)

第57条 学生は、休学期間が満了したときは、復学するものとする。

2 休学期間が満了する前に休学の事由が消滅したときは、復学願を提出し、学長の許可を得るものとする。

(退学等)

第58条 疾病その他の事由により退学しようとする者は、退学願を提出し、学長の許可を得るものとする。

2 他の大学に入学、転学又は本学に改めて入学を志願する者は、受験願を提出し、学長の許可を得るものとする。

(再入学)

第59条 本学を退学した者が同一学部の同一学科又は課程に再入学を願い出たときは、選考の上許可することができる。

2 前項の再入学の取扱いについては、別に定める。

(編入学)

第60条 次の各号のいずれかに該当する者で、本学に編入学を願い出たときは、選考の上許可することができる。

一 大学を卒業した者又は大学に2年以上在学し所定の単位を修得した者

二 短期大学又は高等専門学校を卒業した者

三 外国の短期大学を卒業した者又は外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者（学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。）

四 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者（学校教育法第90条に規定する者に限る。）

る。)

- 五 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）附則第7条の規定により大学に編入学することができる者
  - 六 工業教員養成所又は養護教諭養成所を卒業した者
  - 七 外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者
- 2 前項の編入学の取扱いについては、別に定める。

## 第6節 教育職員免許

（教育職員免許）

- 第61条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。
- 2 本学の学部の学科又は課程において当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類及び教科は、別表2に掲げるとおりとする。

## 第7節 検定料、入学料及び授業料

（検定料、入学料及び授業料の額）

- 第62条 検定料、入学料及び授業料の額は、岩手大学における授業料その他の料金に関する規則の定めるところによる。

（授業料の納付）

- 第63条 授業料は、前期及び後期の2期に分けて、それぞれ年額の2分の1に相当する額を、前期にあつては5月、後期にあつては11月に納付しなければならない。

（検定料、入学料及び授業料の免除又は徴収猶予）

- 第64条 検定料、入学料及び授業料は、別に定めるところにより免除又は徴収猶予を認めることがある。

## 第65条 削除

（退学、復学又は停学の場合の授業料の納付）

- 第66条 学生が退学し、又は退学を命ぜられた場合は、その日の属する期の授業料を、休学中の者が復学した場合は、その日の属する月から次の徴収の時期前までの月割の授業料を、また、停学を命ぜられた場合は、その期間中も授業料を納付しなければならない。

（検定料、入学料及び授業料の返還等）

- 第67条 既納の検定料、入学料及び授業料は、返還しない。
- 2 前項の規定にかかわらず、学部における入学者選抜試験において出願書類等による選抜（以下この項において「第1段階目の選抜」という。）を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜（以下この項において「第2段階目の選抜」という。）を行う場合、第1段階目の選抜で不合格になった者に対し、第2段階目の選抜に係る検定料に相当する額を返還する。
- 3 学部における入学者選抜試験に際し、個別学力検査出願受付後に大学入試センター試験受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者に対しては、第1項の規定にかかわらず、前項の規定を準用し、第2段階目の選抜に係る検定料に相当する額を返還する。
- 4 検定料を納付した者が、入学試験日までに災害救助法対象の災害に被災し、納付した検定料の返還を申請し許可された場合には、第1項の規定にかかわらず、当該検定料に相当する額を返還する。
- 5 入学を許可されたときに授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日まで

- に入学を辞退した場合には、第1項の規定にかかわらず、当該授業料相当額を返還する。
- 6 前期分授業料納付の際、前期分及び後期分授業料を納付し、後期分授業料の納付時期前に休学又は退学した場合には、第1項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を返還する。
- 7 入学料又は授業料を納付した者が、免除を申請し許可された場合には、第1項の規定にかかわらず、当該入学料又は授業料に係る免除相当額を返還する。

## 第8節 表彰、除籍及び懲戒

### (表彰)

第68条 学長は、表彰に値する顕著な業績等がある学生を、表彰することがある。

- 2 前項の表彰に関する規則は、別に定める。

### (除籍)

第69条 学長は、次の各号のいずれかに該当する学生を、教授会の審議を経て除籍する。

- 一 第29条第3項に規定する在学期間を超えた者
- 二 休学期間が第29条第1項に規定する修業年限を超えてなお復学できない者
- 三 入学料の免除若しくは徴収猶予を申請した者のうち、免除若しくは徴収猶予が認められなかった場合又は半額の免除若しくは徴収猶予が認められた場合において、所定の期間内に入学料を納付しない者
- 四 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- 五 死亡又は長期にわたり行方不明の者

### (懲戒)

第70条 この学則に背き、学生としての本分に反し、また学内の秩序を乱す行為があったときは、教授会の審議を受け、教育研究評議会の議を経て学長が当該学生を懲戒する。

- 2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。
- 3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対して行う。
- 一 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
  - 二 学力劣等で、成業の見込みがないと認められる者
  - 三 正当な理由がなく、出席が常でない者
  - 四 学内の秩序を乱し、その他学生の本分に反した者

## 第3章 補則

### 第1節 学生証

#### (学生証)

第71条 学生は、別に定める学生証の交付を受け、常にこれを所持しなければならない。

### 第2節 健康診断

#### (健康診断の実施)

第72条 本学は、学校保健法（昭和33年法律第56号）に基づき、毎年定期的に健康診断を行う。また、学長が必要と認めた場合には、臨時の健康診断を行うことがある。

#### (健康診断の受診)

第73条 学生は、本学が行う健康診断を受けなければならない。

### 第3節 福利厚生施設

#### (福利厚生施設)

第74条 本学に、学生寮、大学会館、課外活動施設等の福利厚生施設を置く。

- 2 前項の福利厚生施設に関する規則は、別に定める。

#### 第4節 科目等履修生、研究生及び特別聴講学生

(科目等履修生)

第75条 本学の学生以外の者で、本学が開設する授業科目の履修を志願するものがあるときは、本学の授業に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可する。

2 前項の科目等履修生に関する規則は、別に定める。

(研究生)

第76条 本学において特定の専門的事項の研究を志願する者があるときは、本学の教育又は研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可する。

2 前項の研究生に関する規則は、別に定める。

(特別聴講学生)

第77条 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）の学生で、本学の授業科目を履修しようとする者があるときは、当該大学又は短期大学との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 前項の特別聴講学生に関する規則は、別に定める。

#### 第5節 外国人留学生

(外国人留学生)

第78条 外国人（日本国籍を有しない者）で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 前項の外国人留学生に関する規則は、別に定める。

#### 第6節 研修員等

(研修員)

第79条 公共の機関から特別の必要上研修員として委託の申請があったときは、別に定めるところによりこれを研修員として許可することがある。

(受託研究員)

第80条 公共の機関又はその他の機関から特別の必要上研究員として委託の申請があったときは、別に定めるところにより、これを受託研究員として許可することがある。

#### 第7節 公開講座及び科学教育研究室

(公開講座)

第81条 本学に、公開講座を開設する。

2 前項の公開講座については、別に定める。

(科学教育研究室)

第82条 本学に、小学校、中学校及び高等学校の現職の教員の資質向上のため、科学教育研究室を置く。

2 前項の科学教育研究室に関する規則は、別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

(経過規定)

2 この学則の施行の際現に国立学校設置法第3条第1項の規定による岩手大学(以下「旧

岩手大学」という。)に在学している者は、この学則の施行の日において、本学の学生となるものとする。

- 3 前項の規定による学生の教育課程及び教育職員免許取得に関する事項については、この学則の規定にかかわらず、当該学生が入学した際の、旧岩手大学学則の規定によるものとする。
- 4 第34条の規定にかかわらず、平成16年度から平成18年度における人文社会科学部の国際文化課程及び法学・経済課程並びに工学部の応用化学科及び建設環境工学科の学生の収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

学 部	学科又は課程	平成16年度	平成17年度	平成18年度
人文社会科学部	国際文化課程	305名		
	法学・経済課程	285名		
工 学 部	応 用 化 学 科	310名	300名	290名
	建設環境工学科	270名	260名	250名

附 則

この学則は、平成16年12月7日から施行し、平成16年度入学者から適用する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年8月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成17年12月1日から施行する。ただし、第3条、第7条及び第34条の改正規定は平成18年4月1日から施行する。
- 2 この学則による改正後の第42条の規定は平成18年度入学者及び編入学者から、第47条の規定は平成19年度入学者から、第60条の規定は平成19年度編入学者から、第54条の規定は平成17年度入学者から適用する。
- 3 この学則による改正後の第34条の規定にかかわらず、平成18年度から平成20年度までの工学部の応用化学科、材料物性工学科、機械工学科、建設環境工学科及び情報システム工学科の学生の収容定員並びに工学部の収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

学部	学 科	平成18年度	平成19年度	平成20年度
工 学 部	応用化学科	288名	276名	274名
	材料物性工学科	198名	196名	194名
	機械工学科	318名	316名	314名
	建設環境工学科	248名	236名	234名
	情報システム工学科	278名	276名	274名
	計	1,810名	1,780名	1,770名

附 則

この学則は、平成18年1月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年7月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、第8条の改正規定は、平成18年10月1日から施行する。

(経過規定)

- 2 この学則による改正前の農学部農業生命科学科、農林環境科学科及び獣医学科は、改正後の国立大学法人岩手大学学則第3条の規定にかかわらず、平成19年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則第34条の規定にかかわらず平成19年度から平成23年度までの農学部の学生の収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学科又は課程	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
農学部	農学生命課程	55名	110名	165名		
	応用生物化学課程	40名	80名	120名		
	共生環境課程	55名	110名	165名		
	動物科学課程	30名	60名	90名		
	3年次編入学			5名		
	獣医学課程	30名	60名	90名	120名	150名
	農業生命科学科	270名	180名	90名		
	農林環境科学科	280名	190名	95名		
	獣医学科	150名	120名	90名	60名	30名

- 4 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則別表1及び別表2の農学部に係る規定は、平成19年4月1日以後の入学者から適用し、平成19年3月31日以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この学則は、平成19年4月1日以降の入学者から適用し、平成19年3月31日以前の入学者については、なお従前の例による。
- 3 この学則の編入学者への適用は、当該編入学者が属する年次の学生と同様に取り扱うものとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

(経過規定)

- 2 この学則の施行の日（以下「施行日」という。）の前日に本学の講師として在職し、その者が施行日以後も引き続き講師として在職する間にあつては、第11条第1項中「教員（教授、准教授、助教、教頭、教諭及び養護教諭をいう。）」とあるのは「教員（教授、准教授、講師、助教、教頭、教諭及び養護教諭をいう。）」と読み替えるものとする。



附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年12月26日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。ただし、第8条の改正規定は、平成19年2月1日から施行する。
- 2 この学則による改正後の第5条、別表1及び別表3の規定は、平成19年4月1日以後の入学者から適用し、平成19年3月31日以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。  
(経過措置)
- 2 この学則による改正後の別表1、別表2及び別表3の規定は、平成19年4月1日以後の入学者から適用し、平成19年3月31日以前の入学者については、なお従前の例による。
- 3 この学則の編入学者への適用は、当該編入学者が属する年次の学生と同様に取り扱うものとする。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年11月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。  
(経過規定)
- 2 この学則による改正前の工学部応用化学科、材料物性工学科、電気電子工学科、機械工学科、建設環境工学科、情報システム工学科及び福祉システム工学科は、改正後の国立大学法人岩手大学学則第3条の規定にかかわらず、平成21年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則第34条の規定にかかわらず平成21年度から平成23年度までの工学部の学生の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成21年度	平成22年度	平成23年度
工学部	応用化学・生命工学科	75名	150名	225名
	マテリアル工学科	60名	120名	180名
	電気電子・情報システム工学科	120名	240名	360名
	機械システム工学科	80名	160名	240名
	社会環境工学科	65名	130名	195名
	応用化学科	204名	136名	68名
	材料物性工学科	144名	96名	48名
	電気電子工学科	180名	120名	60名
	機械工学科	234名	156名	78名
	建設環境工学科	174名	116名	58名
	情報システム工学科	204名	136名	68名
	福祉システム工学科	150名	100名	50名
	計	1,730名	1,700名	1,670名

4 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則別表1及び別表2の工学部に係る規定は、平成21年4月1日以後の入学者から適用し、平成21年3月31日以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成21年6月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年6月8日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年10月25日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。

(経過規定)

2 この学則による改正前の農学部獣医学課程は、改正後の国立大学法人岩手大学学則第3条の規定にかかわらず、平成24年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則第34条の規定にかかわらず平成24年度から平成28年度までの農学部獣医学課程及び共同獣医学科の学生の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科又は課程	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
農学部	獣医学課程	150名	120名	90名	60名	30名

共同獣医学科	30名	60名	90名	120名	150名
--------	-----	-----	-----	------	------

4 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則別表1及び別表2の農学部に係る規定は、平成24年4月1日以後の入学者から適用し、平成24年3月31日以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成24年12月25日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成25年2月21日から施行する。ただし、第5条の改正規定は平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。ただし、第63条の改正規定は、平成27年10月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。

(経過規定)

2 この学則による改正前の人文社会科学部人間科学課程、国際文化課程、法学・経済課程及び環境科学課程、教育学部生涯教育課程及び芸術文化課程、工学部化学・生命工学科、マテリアル工学科、電気電子・情報システム工学科、機械システム工学科及び社会環境工学科、農学部農学生命課程、応用生物化学課程、共生環境課程及び動物科学課程は、改正後の国立大学法人岩手大学学則第3条の規定にかかわらず、平成28年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則第34条の規定にかかわらず平成28年度から平成30年度までの学生の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成28年度	平成29年度	平成30年度
人文社会科学部	人間文化課程	125名	250名	375名
	地域政策課程	75名	150名	225名
	人間科学課程	120名	80名	40名
	国際文化課程	225名	150名	75名
	法学・経済課程	210名	140名	70名
	環境科学課程	90名	60名	30名
	計	865名	850名	835名
教育学部	生涯教育課程	150名	100名	50名
	芸術文化課程	120名	80名	40名
	計	910名	820名	730名
理工学部	化学・生命理工学科	90名	180名	270名
	物理・材料理工学科	80名	160名	240名
	システム創成工学科	270名	540名	810名
工学部	応用化学・生命工学科	225名	150名	75名

	マテリアル工学科	180名	120名	60名
	電気電子・情報システム工学科	360名	240名	120名
	機械システム工学科	240名	160名	80名
	社会環境工学科	195名	130名	65名
	計	1,680名	1,720名	1,740名
農学部	植物生命科学科	40名	80名	120名
	応用生物化学科	40名	80名	120名
	森林科学科	30名	60名	90名
	食料生産環境学科	60名	120名	180名
	動物科学科	30名	60名	90名
	農学生命課程	165名	110名	55名
	応用生物化学課程	120名	80名	40名
	共生環境課程	165名	110名	55名
	動物科学課程	90名	60名	30名
		930名	950名	970名

- 4 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則別表1及び別表2に係る規定は、平成28年4月1日以後の入学者から適用し、平成28年3月31日以前の入学者については、なお従前の例による。

別表1 第37条に定められた学生の修得すべき単位数

学部	学科又は課程	コース	全学共通 教育科目	共通教 育科目	専門教 育科目	合 計
人文 社会 科学 部	人間文化課程		4 3		8 2	1 2 5
	地域政策課程					
教育 学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	3 3		1 0 5	1 3 8
		中学校教育コース			1 0 3	1 3 6
		理数教育コース			1 0 7	1 4 0
		特別支援教育コース			1 0 9	1 4 2
理工 学部	化学・生命理工学科	化学コース	3 1		9 6	1 2 7
		生命コース				
	物理・材料理工学科	数理・物理コース				
		マテリアルコース				
	システム創成工学科	電気電子通信コース				
		知能・メディア情報コース				
		機械システム工学科				
農学 部	植物生命科学科		3 5		9 1	1 2 6
	応用生物化学科					
	森林科学科					
	食料生産環境学科	農村地域デザイン学コース				
		食産業システム学コース				
		水産システム学コース				
	動物科学科					
共同獣医学科			4 4	1 5 8	2 0 2	

別表2 第61条第2項に定められた免許状の種類及び教科又は特別支援教育領域

学部	学科又は課程	免許状の種類	教科又は特別支援教育領域
人文社会科学部	人間文化課程	中学校教諭 一種免許状	国語、社会、英語、ドイツ語、フランス語
		高等学校教諭 一種免許状	国語、公民、地理歴史、書道、英語、ドイツ語、フランス語
	地域政策課程	中学校教諭 一種免許状	社会
		高等学校教諭 一種免許状	公民
教育学部	学校教育教員養成課程	幼稚園教諭 一種免許状	
		小学校教諭 一種免許状	
		中学校教諭 一種免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語
		高等学校教諭 一種免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語
	特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者に関する教育、肢体不自由者に関する教育、病弱者（身体虚弱者を含む。）に関する教育	
理工学部	化学・生命理工学科	高等学校教諭 一種免許状	理科、工業
	物理・材料理工学科	高等学校教諭 一種免許状	数学、理科、工業
	システム創成工学科	高等学校教諭 一種免許状	数学、理科、工業
農学部	植物生命科学科	高等学校教諭 一種免許状	理科、農業
	応用生物化学科		
	森林科学科		
	食料生産環境学科		
	動物科学科		

# 国立大学法人岩手大学大学院学則（案）

（平成16年4月1日制定）

## 第1章 総則

（目的）

- 第1条 国立大学法人岩手大学大学院（以下「本大学院」という。）は、学術の理論及び応用を教育研究し、国際的な学術文化の創造を目指すとともに、幅広く高度な学識と専門的な能力を備えた人材の育成を通じて、地域社会と国際社会の文化の進展に寄与することを目的とする。
- 2 本大学院は、研究科又は専攻ごとに人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。

## 第2章 組織

（研究科及び課程）

第2条 本大学院に次の研究科を置く。

人文社会科学研究科  
教育学研究科  
工学研究科  
農学研究科  
連合農学研究科

- 2 人文社会科学研究科及び農学研究科の課程は、修士課程とする。
- 3 工学研究科の課程は、前期2年の課程及び後期3年の課程に区分する博士課程とし、前期2年の課程を「博士前期課程」、後期3年の課程を「博士後期課程」とする。ただし、博士前期課程は、これを修士課程として取り扱う。
- 4 連合農学研究科の課程は、後期3年のみの博士課程（以下「博士課程」という。）とする。
- 5 教育学研究科の課程は、専門職大学院設置基準第2条に規定する専門職学位課程（以下「教職大学院の課程」という。）とする。

（連合農学研究科における教育研究の実施）

第3条 連合農学研究科の教育研究は、国立大学法人岩手大学（以下「本学」という。）、国立大学法人弘前大学（以下「弘前大学」という。）、国立大学法人山形大学（以下「山形大学」という。）及び国立大学法人帯広畜産大学（以下「帯広畜産大学」という。）の協力により実施するものとする。

（国立大学法人岐阜大学大学院連合獣医学研究科における教育研究の実施）

第4条 国立大学法人岐阜大学大学院に設置される連合獣医学研究科の教育研究の実施に当たっては、本学は、帯広畜産大学、国立大学法人東京農工大学（以下「東京農工大学」という。）及び国立大学法人岐阜大学（以下「岐阜大学」という。）とともに協力するものとする。

- 2 前項の連合獣医学研究科に置かれる連合講座は、帯広畜産大学の畜産学部及び原虫病研究センター、東京農工大学農学部並びに岐阜大学応用生物科学部の教員とともに、本学農学部の教員がこれを担当するものとする。

（専攻）

第5条 各研究科に次の専攻を置く。

研究科名	課程	専攻
人文社会科学研究科	修士課程	人間科学専攻
		国際文化学専攻

		社会・環境システム専攻
教育学研究科	教職大学院の課程	教職実践専攻
工学研究科	博士前期課程	応用化学・生命工学専攻
		フロンティア材料機能工学専攻
		電気電子・情報システム工学専攻
		機械システム工学専攻
		社会環境工学専攻
		デザイン・メディア工学専攻
		金型・鋳造工学専攻
	博士後期課程	フロンティア物質機能工学専攻
		電気電子・情報システム工学専攻
		機械・社会環境システム工学専攻
	デザイン・メディア工学専攻	
農学研究科	修士課程	農学生命専攻
		応用生物化学専攻
		共生環境専攻
		動物科学専攻
		バイオフィロンティア専攻
連合農学研究科	博士課程	生物生産科学専攻
		生物資源科学専攻
		寒冷圏生命システム学専攻
		生物環境科学専攻

(教員組織)

第6条 本大学院（連合農学研究科を除く。）の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を担当する教員は、本学の教授、准教授及び助教並びに客員教授及び客員准教授とし、各研究科の教育研究上の目的を達成するため、授与する学位の種類及び分野に応じ、一の研究科を専ら担当するものとする。ただし、必要あるときは、このほか所定の資格基準に基づき、他の者を第7条第1項に規定する研究科教授会の議を経て学長が委嘱することができる。

2 連合農学研究科における授業並びに研究指導及び研究指導の補助を担当する教員は、当該研究科の専任の教員並びに客員教授及び客員准教授並びに本学の教育学部、工学部及び農学部、弘前大学の農学生命科学部及び遺伝子実験施設、山形大学の農学部並びに帯広畜産大学の畜産学部及び大学院畜産学研究科に所属する専任の教員であって、当該研究科における研究指導を担当する資格を有するもの（以下「連合農学研究科の教員」という。）のうちから指名された者とする。

3 前項に規定するもののほか連合農学研究科の教員組織については、連合農学研究科において、別に定める。

4 博士後期課程又は博士課程を担当する教員は、教育研究上支障を生じない場合には、一個の専攻に限り、修士課程又は博士前期課程若しくは教職大学院の課程を担当する教員のうち博士後期課程又は博士課程が定める資格を有するものがこれを兼ねることができる。

(運営組織)

第7条 本大学院の管理運営のため、大学院委員会並びに各研究科に研究科教授会及び専攻会議を置く。

2 前項の大学院委員会並びに研究科教授会及び専攻会議に関する規則は、別に定める。

第8条 連合農学研究科の管理運営の基本に関し、構成大学間の連絡調整を図るため、連



合農学研究科構成法人間連絡調整委員会を置く。

2 前項の委員会に関する規則は、別に定める。

(研究科長等)

第9条 各研究科(連合農学研究科を除く。)に研究科長及び副研究科長を置き、当該研究科の基礎となる学部の学部長及び副学部長をもって充てる。

2 連合農学研究科に研究科長及び研究科長補佐を置く。

(自己評価等)

第10条 本大学院は、その教育研究水準の向上を図り、本大学院の目的及び社会的使命を達成するため、本大学院における教育研究、組織運営及び施設設備について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価の項目並びに実施体制については、別に定める。

3 第1項の点検及び評価の結果については、岩手大学の職員以外の者による検証を行うよう努めるものとする。

### 第3章 収容定員等、標準修業年限及び在学期間

(収容定員等)

第11条 研究科の専攻別収容定員等は、次の表のとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	入学定員	収容定員
人文社会科学 研究科	修士 課程	人間科学専攻	8名	16名
		国際文化学専攻	4名	8名
		社会・環境システム専攻	4名	8名
		計	16名	32名
教育学研究科	教職 大学院の 課程	教職実践専攻	16名	32名
		計	16名	32名
工学研究科	博士 前期 課程	※応用化学・生命工学専攻	25名	50名
		フロンティア材料機能工学専攻	30名	60名
		電気電子・情報システム工学専攻	40名	80名
		機械システム工学専攻	30名	60名
		社会環境工学専攻	20名	40名
		デザイン・メディア工学専攻	10名	20名
		金型・鋳造工学専攻	10名	20名
	計	165名	330名	
	博士 後期 課程	※フロンティア物質機能工学専攻	9名	27名
		電気電子・情報システム工学専攻	4名	12名
機械・社会環境システム工学専攻		4名	12名	
デザイン・メディア工学専攻		3名	9名	
計	20名	60名		
農学研究科	修士 課程	農学生命専攻	20名	40名
		応用生物化学専攻	15名	30名
		共生環境専攻	16名	32名
		動物科学専攻	8名	16名
		※バイオフィロンティア専攻	8名	16名
計	67名	134名		
博士	※生物生産科学専攻	8名	24名	
		※生物資源科学専攻	10名	30名

連合農学研究科	課程	※寒冷圏生命システム学専攻	6名	18名
		※生物環境科学専攻	8名	24名
		計	32名	96名
備考 ※印を冠するものは、入学定員の一部について連携大学院方式を実施する専攻である。				

2 人文社会科学研究所社会・環境システム専攻については、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第3条第3項の規定に基づく標準修業年限を1年以上2年未満とするコース（以下「1年制コース」という。）を含むものとする。

（標準修業年限）

第12条 修士課程、博士前期課程及び教職大学院の課程の標準修業年限は2年とし、博士後期課程及び博士課程の標準修業年限は3年とする。ただし、人文社会科学研究所社会・環境システム専攻の1年制コースの標準修業年限は、1年とする。

（在学期間）

第13条 在学期間は、標準修業年限の2倍を超えることができない。

#### 第4章 修士課程、博士課程、博士前期課程及び博士後期課程の教育課程

（教育方法）

第14条 本大学院（教職大学院の課程を除く。以下この章において同じ。）の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

（教育課程の編成方針）

第14条の2 本大学院は研究科及び専攻の目的を達成するために必要な授業科目の開設及び研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮するものとする。

（履修方法等）

第15条 前条に規定する授業科目の内容、単位数及び履修方法並びに研究指導の内容及び履修方法は、各研究科において定める。

（一の授業科目について二以上の方法の併用により行う場合の単位の計算基準）

第15条の2 本大学院は、一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、国立大学法人岩手大学学則（以下「大学学則」という。）第38条第1項各号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもって1単位とするものとする。

（成績評価基準等の明示等）

第15条の3 本大学院は、学生に対して授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 学修の成果及び学位論文にかかる評価並びに修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

（教育内容等の改善のための組織的な研修）

第15条の4 本大学院は、授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

（単位の授与）

第16条 修士課程、博士前期課程、博士後期課程及び博士課程における授業科目の履修単位は、筆答又は口頭試験あるいは研究報告の成績を評価して与えるものとする。

（他の大学院における授業科目の履修等）

第17条 本大学院が教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生に

当該大学院の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により修得した単位は、10単位を超えない範囲で、本大学院において修得したものとみなすことができる。

3 前項の規定は、第35条の規定による留学の場合に準用する。

(入学前の既修得単位の認定)

第17条の2 本大学院が教育上有益と認めるときは、学生が本大学院に入学する前に本大学院又は他の大学院において履修した授業科目について修得した単位(大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第15条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学院に入学した後の本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなすことのできる単位数は、第34条に規定する編入学及び転学の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、10単位を超えないものとする。

(他の大学院等における研究指導)

第18条 本大学院が教育上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等との協議に基づき、学生に当該大学院又は研究所等において、必要な研究指導を受けさせることができる。ただし、修士課程、博士前期課程及び博士後期課程の学生については、当該研究指導期間は、1年を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第19条 学生(1年制コースに在学する学生を除く。)が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

(論文の審査及び試験)

第20条 学位論文の審査は、当該論文の専攻分野の属する研究科教授会において行うものとする。

2 最終試験の合格・不合格は、当該専攻における判定に基づき、研究科教授会が行うものとする。

(課程の修了及び学位の授与)

第21条 修士課程及び博士前期課程の修了要件は、修士課程又は博士前期課程に2年(1年制コースに在学する学生については1年)以上在学し、授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士課程又は博士前期課程の目的に応じ、当該研究科の行う修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

2 博士後期課程又は博士課程の修了要件は、博士後期課程又は博士課程に3年以上在学し、授業科目について博士後期課程は11単位以上、博士課程は12単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

3 本大学院及び他の大学院において、優れた業績を上げて1年以上の在学期間をもって修士課程及び博士前期課程を修了した者及び1年制コースを修了した者の博士後期課程又は博士課程の修了要件については、前項ただし書中「1年」とあるのは「3年(修士課程及び博士前期課程における在学期間を含む。)」と読み替えて、前項の規定を適用する。

4 修士課程及び博士前期課程を修了した者には修士の学位を授与し、博士後期課程又は博士課程を修了した者には博士の学位を授与する。

5 博士の学位は、本学に学位論文を提出してその審査に合格し、かつ、博士後期課程又は博士課程を修了した者と同等以上の学力を有すると確認された者にも授与することができる。

6 前2項に規定するもののほか、学位の授与については、別に定める。

#### 第4章の2 教職大学院の課程の教育課程

##### (教育課程)

第21条の2 教職大学院の課程は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、「理論と実践の融合」を具現化するための体系的な教育課程を編成するものとする。

##### (授業の方法等)

第21条の3 教職大学院の課程は、その目的を達成し得る実践的な教育を行うよう事例研究、現地調査又は双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法により授業を行うなど適切に配慮しなければならない。

##### (履修方法等)

第21条の4 前条に規定する授業科目の内容、単位数及び履修方法の内容及び履修方法は、各研究科において定める。

##### (一の授業科目について二以上の方法の併用により行う場合の単位の計算基準)

第21条の5 教職大学院の課程は、一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、国立大学法人岩手大学学則（以下「大学学則」という。）第38条第1項各号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもって1単位とするものとする。

##### (成績評価基準等の明示等)

第21条の6 教職大学院の課程は、学生に対して授業の方法及び内容、1年間の授業をあらかじめ明示するものとする。

2 学修の成果及び修了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

##### (教育内容等の改善のための組織的な研修)

第21条の7 教職大学院の課程は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

##### (履修科目の登録の上限)

第21条の8 教職大学院の課程は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。

##### (他の大学院における授業科目の履修等)

第21条の9 教育上有益と認めるときは、学生が他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、本教職大学院が修了要件として定める48単位以上の単位数の2分の1を超えない範囲で当該教職大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、第35条の規定による留学の場合に準用する。

##### (入学前の既修得単位の認定)

第21条の10 教育上有益と認めるときは、学生が本教職大学院に入学する前に本大学院又は他の大学院において履修した授業科目について修得した単位(大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第15条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本教職大学院に入学した後の本教職大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなすことのできる単位数は、第34条に規定する編入学及び転学の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、前条第1項の規定により本教職大学院において修得したものとみなす単位数及び次条第2項の規定により免除する単位数と合わせて本教職大学院が修了要件として定める48単位以

上の単位数の2分の1を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第21条の11 学生(1年制コースに在学する学生を除く。)が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

(課程の修了及び学位の授与)

第21条の12 教職大学院の課程の修了要件は、教職大学院の課程に2年以上在学し、48単位以上を修得することとする。

2 前2項に規定するもののほか、学位の授与については、別に定める。

## 第5章 教育職員免許

(教育職員免許)

第22条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 前項の規定により各研究科において取得できる教員の免許状の種類及び教科は、別表に掲げるとおりとする。

## 第6章 入学、休学、復学、退学、再入学、編入学、転学、留学、表彰、除籍及び懲戒

(入学時期)

第23条 入学の時期は、毎年4月又は10月とする。

(修士課程、博士前期課程及び教職大学院の課程の入学資格)

第24条 修士課程、博士前期課程及び教職大学院の課程に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 学校教育法第83条第1項に定める大学の卒業生

二 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

三 外国において学校教育における16年の課程を修了した者

四 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者

五 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者

六 専修学校の専門課程(修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

七 文部科学大臣の指定した者

八 大学に3年以上在学し、外国において学校教育における15年の課程を修了し、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における15年の課程を修了し、又は我が国において外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本大学院において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

九 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達したもの

(博士後期課程及び博士課程の入学資格)

第25条 博士後期課程及び博士課程に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 修士の学位又は専門職学位を有する者
- 二 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- 三 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- 四 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- 五 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- 六 文部科学大臣の指定した者
- 七 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、24歳に達したもの

(入学志願の手続)

第26条 入学を志願する者は、所定の期間内に、別に指定する関係書類に検定料を添えて本学に提出しなければならない。

(合格者の決定)

第27条 学長は、前条の入学志願者について、選考の上合格者を決定する。

2 前項の選考の方法及び時期等については、その都度これを定める。

(入学の手続)

第28条 入学の手続については、大学学則第50条の規定を準用する。

(入学の許可)

第29条 学長は、前条の手続を経た者に対し、入学を許可する。

(休学)

第30条 疾病その他の事由により、3月以上修学できない者は、休学願を提出し、学長の許可を得るものとする。

2 疾病のため、修学が不相当と認められる者に対して、学長は、休学を命ずることができる。

3 第1項の休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、願い出により引き続き休学することができる。

4 休学期間は、修士課程、博士前期課程及び教職大学院の課程にあつては通算して2年(1年制コースにあつては1年)、博士後期課程及び博士課程にあつては通算して3年を超えることができない。

(復学)

第31条 学生は、休学期間が満了したときは、復学するものとする。

2 休学期間が満了する前に休学の事由が消滅したときは、復学願を提出し、学長の許可を得るものとする。

(退学)

第32条 疾病その他の事由により退学しようとする者は、退学願を提出し、学長の許可を得るものとする。

(再入学)

第33条 本学の大学院研究科を退学した者が同一課程の同一専攻に再入学を願い出たときは、研究科教授会の議を経て許可することがある。

2 前項の再入学の取扱については、別に定める。

(編入学及び転学)

第34条 編入学及び転学については、研究科教授会の議を経て学長が許可する。

2 他の大学の大学院から本学の大学院に転科又は転学を希望する者があるときは、欠員のある場合に限り許可することがある。

(留学)

第35条 本大学院が教育上有益と認めるときは、外国の大学院との協議に基づき、学生が当該大学院に留学することを許可することができる。

2 留学の期間は、第12条及び第13条に規定する標準修業年限及び在学期間に含めるものとする。

(表彰)

第36条 学長は、表彰に値する顕著な業績等がある学生を、表彰することがある。

2 前項の表彰については、別に定める。

(除籍)

第37条 除籍は、研究科教授会の議を経て学長がこれを行う。

2 前項の除籍については、大学学則第69条の規定を準用する。

(懲戒)

第38条 懲戒は、研究科教授会の発議により、教育研究評議会の議を経て学長がこれを行う。

2 前項の懲戒については、大学学則第70条の規定を準用する。

## 第7章 検定料、入学料及び授業料

(検定料、入学料及び授業料の額)

第39条 検定料、入学料及び授業料の額は、岩手大学における授業料その他の料金に関する規則の定めるところによる。

(授業料の納付)

第40条 授業料の納付については、大学学則第63条の規定を準用する。

(検定料、入学料及び授業料の免除又は徴収猶予)

第41条 検定料、入学料及び授業料の免除又は徴収猶予については、大学学則第64条の規定を準用する。

第42条 削除

(退学、復学又は停学の場合の授業料の納付)

第43条 退学、復学又は停学の場合の授業料の納付については、大学学則第66条の規定を準用する。

(検定料、入学料及び授業料の返還等)

第44条 検定料、入学料及び授業料の返還等については、大学学則第67条第1項、同条第4項、同条第5項、同条第6項及び同条第7項の規定を準用する。

## 第8章 学年、学期及び休業日

(学年、学期及び休業日)

第45条 本大学院の学年、学期及び休業日については、大学学則第31条から第33条までの規定を準用する。

## 第9章 科目等履修生、研究生、特別聴講学生及び特別研究学生

(科目等履修生)

第46条 本学の学生以外の者で、本大学院が開設する授業科目の履修を志願するものがあるときは、本学の授業に支障のない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可する。

2 前項の科目等履修生に関する規則は、別に定める。

(研究生)

第47条 本大学院において特定の専門的事項の研究を志願する者があるときは、本大学院の教育又は研究に支障のない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可する。

- 2 前項の研究生に関する規則は、別に定める。  
(特別聴講学生)

第48条 他の大学院（外国の大学院を含む。）の学生が、本大学院の授業科目を履修しようとするときは、当該大学院との協議に基づき、特別聴講学生として入学を許可することがある。

- 2 前項の特別聴講学生に関する規則は、別に定める。  
(特別研究学生)

第49条 他の大学院（外国の大学院を含む。）の学生が、本大学院において研究指導を受けようとするときは、当該大学院との協議に基づき、特別研究学生として受入れを許可することがある。

- 2 前項の特別研究学生に関する規則は、別に定める。

## 第10章 外国人留学生

(外国人留学生)

第50条 外国人（日本国籍を有しない者）で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本大学院に入学を志願する者があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

- 2 前項の外国人留学生に関する規則は、別に定める。

## 第11章 雑則

(大学学則の準用)

第51条 この学則に規定しない事項は、大学学則の規定を準用する。

- 2 前項の他、本学が学術交流協定等を締結し、外国の大学（協定校）と共同して教育・研究指導を行い、学位の取得を促進する教育課程等（デュアルディグリープログラム等）を運用する場合に必要な事項は、関係研究科等において別に定める。

## 附 則

(施行)

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

(経過規定)

- 2 この学則の施行の際現に国立学校設置法第3条第1項の規定による岩手大学(以下「旧岩手大学」という。)大学院に在学している者は、この規則の施行の日において、本大学院の学生となるものとする。
- 3 前項の規定による学生の教育課程及び教育職員免許取得に関する事項については、この学則の規定にかかわらず、当該学生が入学した際の、旧岩手大学の定める岩手大学大学院学則の規定によるものとする。
- 4 この学則の規定にかかわらず、人文社会科学研究科の地域文化専攻及び社会科学専攻、工学研究科の応用分子化学専攻及び情報工学専攻並びに農学研究科の農林生産学専攻、応用生物学専攻及び農業生産環境工学専攻は、平成16年3月31日に当該専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなるまでの間、本大学院に置かれるものとする。
- 5 第11条の規定にかかわらず、平成16年度及び平成17年度における人文社会科学研究科、工学研究科、農学研究科及び連合農学研究科の学生の収容定員は次の表に掲げるとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	平成16年度	平成17年度
	修	人間科学専攻	2名	



人文社会 科学研究科	士 課 程	国際文化学専攻	2名	
		社会・環境システム専攻	2名	
		地域文化専攻	3名	
		社会科学専攻	3名	
工 学 研 究 科	博 士 前 期 課 程	※応用化学専攻	15名	
		材料物性工学専攻	30名	
		電気電子工学専攻	26名	
		機械工学専攻	36名	
		建設環境工学専攻	30名	
		情報システム工学専攻	16名	
		福祉システム工学専攻	12名	
		フロンティア材料機能工学専攻	18名	
		※応用分子化学専攻	17名	
		情報工学専攻	16名	
	計	216名		
博士 後期 課程	フロンティア材料機能工学専攻	8名	16名	
	計	56名	64名	
農 学 研 究 科	修 士 課 程	※農業生命科学専攻	37名	
		農林環境科学専攻	30名	
		農林生産学専攻	24名	
		応用生物学専攻	29名	
		農業生産環境工学専攻	14名	
連合農学研究科	博 士 課 程	※生物資源科学専攻	5名	
		計	61名	
備考 ※印を冠するものは、入学定員の一部について連携大学院方式を実施する専攻である。				

#### 附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

#### 附 則

- この学則は、平成17年12月1日から施行する。ただし、第5条、第6条及び第11条の改正規定は、平成18年4月1日から施行する。
- この学則による改正後の第24条及び第25条の規定は、平成18年10月入学者から適用する。
- この学則による改正後の第11条の規定にかかわらず、平成18年度及び平成19年度における工学研究科博士前期課程の金型・鋳造工学専攻並びに連合農学研究科博士課程の生物資源科学専攻及び寒冷圏生命システム学専攻の学生の収容定員及び工学研究科博士前期課程及び連合農学研究科博士課程の収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

研究科・課程	専 攻	平成18年度	平成19年度
工学研究科 博士前期課程	金型・鋳造工学専攻	10名	
	計	248名	
連合農学研究科 博士課程	生物資源科学専攻	26名	25名
	寒冷圏生命システム	4名	8名

学専攻		
計	66名	69名

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年7月24日から施行する。
- 2 この学則による改正後の第11条、第12条、第17条の2、第19条及び第21条の規定は、平成19年4月1日以降の入学者に係るものから適用し、第30条及び第31条の規定は、平成19年4月1日から適用する。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。  
(経過規定)
- 2 この学則の施行の日（以下「施行日」という。）の前日に本学の講師として在職し、その者が施行日以後も引き続き講師として在職する間にあっては、第6条第1項中「本学の教授及び准教授」とあるのは「本学の教授、准教授及び講師」と読み替えるものとする。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。  
(経過規定)
- 2 この学則の施行の日（以下「施行日」という。）の前日に本学の講師として在職し、その者が施行日以後も引き続き講師として在職する間にあっては第6条第1項中「本学の教授、准教授及び助教」とあるのは「本学の教授、准教授、講師及び助教」と読み替えるものとする。
- 3 この学則による改正後の第21条第2項の博士課程の単位の修得に係る規定は、平成19年4月1日以降の博士課程入学者から適用し、平成19年3月31日以前の博士課程入学者については、なお従前の例による。

附 則

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 この学則による改正後の別表の規定は、平成19年4月1日以後の入学者から適用し、平成19年3月31日以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。  
(経過規定)
- 2 この学則による改正前の教育学研究科修士課程の学校教育専攻及び障害児教育専攻、工学研究科博士前期課程の応用化学専攻、材料物性工学専攻、電気電子工学専攻、機械工学専攻、建設環境工学専攻、情報システム工学専攻、福祉システム工学専攻及びフロンティア材料機能工学専攻、工学研究科博士後期課程の物質工学専攻、生産開発工学専攻

攻、電子情報工学専攻及びフロンティア材料機能工学専攻並びに農学研究科修士課程の農業生命科学専攻及び農林環境科学専攻は、改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第5条の規定にかかわらず、平成21年3月31日に当該専攻に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第11条の規定にかかわらず平成21年度及び平成22年度の学生の収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	平成21年度	平成22年度
人文社会科学 学研究科	修士課程	人間科学専攻	10名	16名
		国際文化学専攻	6名	8名
		社会・環境システム専攻	6名	8名
		計	22名	32名
教育学研究 科	修士課程	学校教育実践専攻	12名	24名
		教科教育専攻	53名	40名
		学校教育専攻	6名	
		障害児教育専攻	3名	
		計	74名	64名
工学研究科	博士前期 課程	※応用化学・生命工学専攻	25名	50名
		フロンティア材料機能工学専攻	48名	60名
		電気電子・情報システム工学専攻	40名	80名
		機械システム工学専攻	30名	60名
		社会環境工学専攻	20名	40名
		デザイン・メディア工学専攻	10名	20名
		金型・鋳造工学専攻	20名	20名
		※応用化学専攻	15名	
		材料物性工学専攻	14名	
		電気電子工学専攻	14名	
		機械工学専攻	16名	
		建設環境工学専攻	14名	
		情報システム工学専攻	16名	
		福祉システム工学専攻	12名	
	計	294名	330名	
	博士後期 課程	※フロンティア物質機能工学専攻	9名	18名
		電気電子・情報システム工学専攻	4名	8名
		機械・社会環境システム工学専攻	4名	8名
		デザイン・メディア工学専攻	3名	6名
		※物質工学専攻	12名	6名
生産開発工学専攻		10名	5名	
電子情報工学専攻		10名	5名	
フロンティア材料機能工学専攻	16名	8名		
計	68名	64名		
農学研究科	修士課程	農学生命専攻	20名	40名
		応用生物化学専攻	15名	30名
		共生環境専攻	16名	32名
		動物科学専攻	8名	16名
		※バイオフィロンティア専攻	8名	16名
		※農業生命科学専攻	37名	
		農林環境科学専攻	30名	
		計	134名	134名

連合農学研究科	博士課程	生物生産科学専攻	20名	22名
		生物資源科学専攻	26名	28名
		※寒冷圏生命システム学専攻	14名	16名
		生物環境科学専攻	20名	22名
	計	80名	88名	

- 4 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則別表の規定は、平成21年4月1日以後の入学から適用し、平成21年3月31日以前の入学については、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成22年6月8日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年12月2日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成24年12月25日から施行し、平成24年4月1日から適用する。

附 則

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

(施行期日)

- この学則は、平成28年4月1日から施行する。  
(経過規定)
- この学則による改正前の教育学研究科修士課程の学校教育実践専攻及び教科教育専攻は、改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第5条の規定にかかわらず、平成28年3月31日に当該専攻に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- この学則による改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第11条の規定にかかわらず平成28年度の学生の収容定員は、次のとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	平成28年度
教育学研究科	教職大学院の課程	教職実践専攻	16名
		学校教育実践専攻 教科教育専攻	12名 20名
		計	48名

- 4 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則別表の規定は、平成28年4月1日以後の入学から適用し、平成28年3月31日以前の入学については、なお従前の例による。

別表 第22条第2項に定められた免許状の種類及び教科又は特別支援教育領域

研究科名	課程	専攻名	コース名	免許状の種類	教科又は特別支援教育領域
人文社会科学 研究科	修士課程	人間科学専攻		中学校教諭 専修免許状	社会
				高等学校教諭 専修免許状	公民
		国際文化学専攻		中学校教諭 専修免許状	国語、社会、英語、 ドイツ語、フランス語
				高等学校教諭 専修免許状	国語、地理歴史、英語、ドイツ 語、フランス語
		社会・環境 システム専攻		中学校教諭 専修免許状	社会
				高等学校教諭 専修免許状	公民
教育学 研究科	教職 大学院の 課程	教職実践専攻		幼稚園教諭 専修免許状	
				小学校教諭 専修免許状	
				中学校教諭 専修免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美 術、保健体育、保健、技術、家庭、 英語
				高等学校教諭 専修免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理 科、音楽、美術、工芸、書道、保 健体育、保健、家庭、情報、農業、 工業、商業、水産、英語、ドイツ 語、フランス語、中国語
				特別支援学校 教諭専修免許 状	知的障害者に関する教育、肢体不 自由者に関する教育、病弱者（身 体虚弱者を含む。）に関する教育
工学 研究科	博士 前期 課程	応用化学・生命工学専攻		高等学校教諭 専修免許状	工業
		フロンティア材料機能 工学専攻			
		電気電子・情報システ ム工学専攻			
		機械システム工学専攻			
		社会環境工学専攻			
農学 研究科	修士 課程	農学生命専攻		高等学校教諭 専修免許状	農業
		応用生物化学専攻			理科
		共生環境専攻			農業
		動物科学専攻			
		バイオフロンティア専攻			理科

## 岩手大学学則等の一部改正（案）の概要

### 1. 改正理由

平成28年度組織再編に伴う所要の改正

### 2. 改正点

人文社会科学部人間科学課程、国際文化課程、法学・経済課程及び環境科学課程、教育学部生涯教育課程及び芸術文化課程、工学部応用化学・生命工学科、マテリアル工学科、電気電子・情報システム工学科、機械システム工学科及び社会環境工学科、農学部農学生命課程、応用生物化学課程、共生環境課程及び動物科学課程を廃止し、人文社会科学部人間文化課程及び地域政策課程、理工学部化学・生命理工学科、物理・材料理工学科及びシステム創成工学科、農学部植物生命科学科、応用生物化学科、森林科学科、食料生産環境学科及び動物科学科を設置並びに大学院教育学研究科学校教育実践専攻及び教科教育専攻を廃止し、教職実践専攻を設置に係る学部・学科・課程及び専攻等の組織名称、入学定員及び収容定員を改正する。

### 3. 施行日

平成28年4月1日

国立大学法人岩手大学学則の一部を改正する規則（案）

改正後	現 行																																												
<p style="text-align: center;">第1章 総則 第1節 目的</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 国立大学法人岩手大学（以下「本学」という。）は、真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを旨すとともに、社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会と国際社会の文化の向上と発展に貢献することを目的とする。</p> <p>2 本学は、学部、学科又は課程ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。</p> <p style="text-align: center;">第2節 構成</p> <p>(学部)</p> <p>第2条 本学に次の学部を置く。 人文社会科学部 教育学部 <u>理工学部</u> 農学部</p> <p>(学科及び課程)</p> <p>第3条 各学部に学科又は課程を次のとおり置く。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">学 部</th> <th style="text-align: center;">学科又は課程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2" style="text-align: center;">人文社会科学部</td> <td style="text-align: center;"><u>人間文化課程</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>地域政策課程</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">教育学部</td> <td style="text-align: center;">学校教育教員養成課程</td> </tr> <tr> <td rowspan="3" style="text-align: center;"><u>理工学部</u></td> <td style="text-align: center;"><u>化学・生命理工学科</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>物理・材料理工学科</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>システム創成工学科</u></td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">農学部</td> <td style="text-align: center;"><u>植物生命科学科</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>応用生物化学科</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>森林科学科</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>食料生産環境学科</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>動物科学科</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>共同獣医学科</u></td> </tr> </tbody> </table> <p>(大学院)</p> <p>第4条 本学に大学院を置く。</p> <p>2 前項の大学院に次の研究科を置く。 人文社会科学研究科 修士課程 教育学研究科 <u>専門職学位課程（教職大学院の課程）</u></p>	学 部	学科又は課程	人文社会科学部	<u>人間文化課程</u>	<u>地域政策課程</u>	教育学部	学校教育教員養成課程	<u>理工学部</u>	<u>化学・生命理工学科</u>	<u>物理・材料理工学科</u>	<u>システム創成工学科</u>	農学部	<u>植物生命科学科</u>	<u>応用生物化学科</u>	<u>森林科学科</u>	<u>食料生産環境学科</u>	<u>動物科学科</u>	<u>共同獣医学科</u>	<p style="text-align: center;">第1章 総則 第1節 目的</p> <p>(目的)</p> <p>第1条 国立大学法人岩手大学（以下「本学」という。）は、真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを旨すとともに、社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会と国際社会の文化の向上と発展に貢献することを目的とする。</p> <p>2 本学は、学部、学科又は課程ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。</p> <p style="text-align: center;">第2節 構成</p> <p>(学部)</p> <p>第2条 本学に次の学部を置く。 人文社会科学部 教育学部 <u>工学部</u> 農学部</p> <p>(学科及び課程)</p> <p>第3条 各学部に学科又は課程を次のとおり置く。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">学 部</th> <th style="text-align: center;">学科又は課程</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">人文社会科学部</td> <td style="text-align: center;"><u>人間科学課程</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>国際文化課程</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>法学・経済課程</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>環境科学課程</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">教育学部</td> <td style="text-align: center;">学校教育教員養成課程</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>生涯教育課程</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>芸術文化課程</u></td> </tr> <tr> <td rowspan="5" style="text-align: center;">工学部</td> <td style="text-align: center;"><u>応用化学・生命工学科</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>マテリアル工学科</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>電気電子・情報システム工学科</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>機械システム工学科</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>社会環境工学科</u></td> </tr> <tr> <td rowspan="4" style="text-align: center;">農学部</td> <td style="text-align: center;"><u>農学生命課程</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>応用生物化学課程</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>共生環境課程</u></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><u>動物科学課程</u></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;"><u>共同獣医学科</u></td> </tr> </tbody> </table> <p>(大学院)</p> <p>第4条 本学に大学院を置く。</p> <p>2 前項の大学院に次の研究科を置く。 人文社会科学研究科 修士課程 教育学研究科 <u>修士課程</u></p>	学 部	学科又は課程	人文社会科学部	<u>人間科学課程</u>	<u>国際文化課程</u>	<u>法学・経済課程</u>	<u>環境科学課程</u>	教育学部	学校教育教員養成課程		<u>生涯教育課程</u>		<u>芸術文化課程</u>	工学部	<u>応用化学・生命工学科</u>	<u>マテリアル工学科</u>	<u>電気電子・情報システム工学科</u>	<u>機械システム工学科</u>	<u>社会環境工学科</u>	農学部	<u>農学生命課程</u>	<u>応用生物化学課程</u>	<u>共生環境課程</u>	<u>動物科学課程</u>		<u>共同獣医学科</u>
学 部	学科又は課程																																												
人文社会科学部	<u>人間文化課程</u>																																												
	<u>地域政策課程</u>																																												
教育学部	学校教育教員養成課程																																												
<u>理工学部</u>	<u>化学・生命理工学科</u>																																												
	<u>物理・材料理工学科</u>																																												
	<u>システム創成工学科</u>																																												
農学部	<u>植物生命科学科</u>																																												
	<u>応用生物化学科</u>																																												
	<u>森林科学科</u>																																												
	<u>食料生産環境学科</u>																																												
	<u>動物科学科</u>																																												
<u>共同獣医学科</u>																																													
学 部	学科又は課程																																												
人文社会科学部	<u>人間科学課程</u>																																												
	<u>国際文化課程</u>																																												
	<u>法学・経済課程</u>																																												
	<u>環境科学課程</u>																																												
教育学部	学校教育教員養成課程																																												
	<u>生涯教育課程</u>																																												
	<u>芸術文化課程</u>																																												
工学部	<u>応用化学・生命工学科</u>																																												
	<u>マテリアル工学科</u>																																												
	<u>電気電子・情報システム工学科</u>																																												
	<u>機械システム工学科</u>																																												
	<u>社会環境工学科</u>																																												
農学部	<u>農学生命課程</u>																																												
	<u>応用生物化学課程</u>																																												
	<u>共生環境課程</u>																																												
	<u>動物科学課程</u>																																												
	<u>共同獣医学科</u>																																												

工学研究科 博士前期課程  
博士後期課程  
農学研究科 修士課程  
連合農学研究科 博士課程  
3 大学院の学則は、別に定める。

(省 略)

(学部附属の教育研究施設)

第8条 本学に次の学部附属の教育研究施設を置く。

人文社会科学部 こころの相談センター  
教育学部 附属教育実践総合センター  
附属自然観察園  
理工学部 附属融合化ものづくり研究センター  
金型技術研究部門  
鋳造技術研究部門  
複合デバイス技術研究部門  
附属ソフトパス工学総合研究センター  
附属ものづくりエンジニアリングファクトリー  
農学部 附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター  
附属動物病院  
附属寒冷バイオフィロンティア研究センター  
附属動物医学食品安全教育研究センター  
附属生物環境制御装置室  
附属植物園  
附属農業教育資料館  
附属自然エネルギー利用温室

2 前項の学部附属の教育研究施設に関する規則は、別に定める。

(省 略)

### 第3節 収容定員等

(収容定員等)

第34条 各学部の学科又は課程の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科又は課程	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
人文社会科学部	人間文化課程	125名	10名	500名
	地域政策課程	75名		300名
	計	200名	10名	820名
	教育学部 学校教育教員養成課程	160名		640名
	計	160名		640名
理工学部	化学・生命工学科	90名	20名	360名
	物理・材料工学科	80名		320名
	システム創成工学科	270名		1,080名
	計			

工学研究科 博士前期課程  
博士後期課程  
農学研究科 修士課程  
連合農学研究科 博士課程  
3 大学院の学則は、別に定める。

(省 略)

(学部附属の教育研究施設)

第8条 本学に次の学部附属の教育研究施設を置く。

人文社会科学部 こころの相談センター  
教育学部 附属教育実践総合センター  
附属自然観察園  
工学部 附属融合化ものづくり研究センター  
金型技術研究部門  
鋳造技術研究部門  
複合デバイス技術研究部門  
附属ソフトパス工学総合研究センター  
附属ものづくりエンジニアリングファクトリー  
農学部 附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター  
附属動物病院  
附属寒冷バイオフィロンティア研究センター  
附属動物医学食品安全教育研究センター  
附属生物環境制御装置室  
附属植物園  
附属農業教育資料館  
附属自然エネルギー利用温室

2 前項の学部附属の教育研究施設に関する規則は、別に定める。

(省 略)

### 第3節 収容定員等

(収容定員等)

第34条 各学部の学科又は課程の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科又は課程	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
人文社会科学部	人間科学課程	40名	10名	160名
	国際文化課程	75名		300名
	法学・経済課程	70名		280名
	環境科学課程	30名		120名
	計	215名	10名	880名
教育学部	学校教育教員養成課程	160名		640名
	生涯教育課程	50名		200名
	芸術文化課程	40名		160名
	計	250名		1,000名
工学部	応用化学・生命工学科	75名	20名	300名
	マテリアル工学科	60名		240名
	電気電子・情報システム工学科	120名		480名
	計			



	計	440名	20名	1,800名
農学部	植物生命科学科	40名	5名	160名
	応用生物化学科	40名		160名
	森林科学科	30名		120名
	食料生産環境学科	60名		180名
	動物科学科	30名		120名
	共同獣医学科	30名	180名	
	(東京農工大学農学部共同獣医学科)	(35名)	(210名)	
	計	210名	5名	930名
備考 ( )は、本学と共同獣医学科を設置している東京農工大学農学部共同獣医学科の入学定員及び収容定員であり、外数とする。				

(省 略)

	機械システム工学科	80名		320名
	社会環境工学科	65名		260名
	計	400名	20名	1,640名
農学部	農学生命課程	55名	5名	220名
	応用生物化学課程	40名		160名
	共生環境課程	55名		220名
	動物科学課程	30名		120名
	共同獣医学科	30名		180名
	(東京農工大学農学部共同獣医学科)	(35名)	(210名)	
	計	210名	5名	910名
	備考 ( )は、本学と共同獣医学科を設置している東京農工大学農学部共同獣医学科の入学定員及び収容定員であり、外数とする。			

(省 略)

附 則

(施行期日)

- この学則は、平成28年4月1日から施行する。  
(経過規定)
- この学則による改正前の人文社会科学部人間科学課程、国際文化課程、法学・経済課程及び環境科学課程、教育学部生涯教育課程及び芸術文化課程、工学部化学・生命工学科、マテリアル工学科、電気電子・情報システム工学科、機械システム工学科及び社会環境工学科、農学部農学生命課程、応用生物化学課程、共生環境課程及び動物科学課程は、改正後の国立大学法人岩手大学学則第3条の規定にかかわらず、平成28年3月31日に当該学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則第34条の規定にかかわらず平成28年度から平成30年度までの学生の収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成28年度	平成29年度	平成30年度
人文 社会 科学 部	人間文化課程	125名	250名	375名
	地域政策課程	75名	150名	225名
	人間科学課程	120名	80名	40名
	国際文化課程	225名	150名	75名
	法学・経済課程	210名	140名	70名
	環境科学課程	90名	60名	30名
	計	865名	850名	835名
教育 学部	生涯教育課程	150名	100名	50名
	芸術文化課程	120名	80名	40名
	計	910名	820名	730名

理工学部	化学・生命理工学科	90名	180名	270名
	物理・材料理工学科	80名	160名	240名
	システム創成工学科	270名	540名	810名
工学部	応用化学・生命工学科	225名	150名	75名
	マテリアル工学科	180名	120名	60名
	電気電子・情報システム工学科	360名	240名	120名
	機械システム工学科	240名	160名	80名
	社会環境工学科	195名	130名	65名
	計	1,680名	1,720名	1,740名
農学部	植物生命科学科	40名	80名	120名
	応用生物化学科	40名	80名	120名
	森林科学科	30名	60名	90名
	食料生産環境学科	60名	120名	180名
	動物科学科	30名	60名	90名
	農学生命課程	165名	110名	55名
	応用生物化学課程	120名	80名	40名
	共生環境課程	165名	110名	55名
	動物科学課程	90名	60名	30名
	930名	950名	970名	

4 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学学則別表1及び別表2に係る規定は、平成28年4月1日以後の入学者から適用し、平成28年3月31日以前の入学者については、なお従前の例による。

別表1 第37条に定められた学生の修得すべき単位数

学部	学科又は課程	コース	全学 共通 教育 科目	共通 教育 科目	専門 教育 科目	合計	
人文社会科学部	人間文化課程		43		82	125	
	地域政策課程						
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	33		105	138	
		中学校教育コース			103	136	
		理数教育コース			107	140	
		特別支援教育コース			109	142	
理工学部	化学・生命理工学科	化学コース	31		96	127	
		生命コース					
	物理・材料理工学科	数理・物理コース					
		マテリアルコース					
	システム創成理工学科	電気電子通信コース					
		知能・メディア情報コース					
		機械システム理工学科					
農学部	植物生命科学科		35		91	126	
	応用生物化学科						
	森林科学科						
	食料生産環境学科						農村地域デザイン学コース
							食産業システム学コース
							水産システム学コース
動物科学科							
共同獣医学科		44	158	202			

別表1 第37条に定められた学生の修得すべき単位数

学部	学科又は課程	コース	全学 共通 教育 科目	共通 教育 科目	専門 教育 科目	合計	
人文社会科学部	人間科学課程		43		82	125	
	国際文化課程						
	法学・経済課程						
	環境科学課程						
教育学部	学校教育教員養成課程	学校教育コース	33		92	125	
		特別支援教育コース			100	133	
	生涯教育課程	日本語・地域文化コース			91	124	
		スポーツ教育コース					
	芸術文化課程	美術・デザインコース 書道コース音楽コース					
工学部	応用化学・生命理工学科		31		94	125	
							マテリアル理工学科
							電気電子・情報システム理工学科
							機械システム理工学科
							社会環境理工学科
							農学部
応用生物化学課程							
共生環境課程							
動物科学課程							
共同獣医学科		44	158	202			

別表2 第61条第2項に定められた免許状の種類及び教科又は特別支援教育領域

学部	学科又は課程	免許状の種類	教科又は特別支援教育領域
人文社会科学部	人間文化課程	中学校教諭一種免許状	国語、社会、英語、ドイツ語、フランス語
		高等学校教諭一種免許状	国語、公民、地理歴史、書道、英語、ドイツ語、フランス語
	地域政策課程	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民
教育学部	学校教育教員養成課程	幼稚園教諭一種免許状	
		小学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語
		高等学校教諭一種免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語
		特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者に関する教育、肢体不自由者に関する教育、病弱者（身体虚弱者を含む。）に関する教育
理工学部	化学・生命理工学科	高等学校教諭一種免許状	理科、工業
	物理・材料理工学科	高等学校教諭一種免許状	数学、理科、工業
	システム創成工学科	高等学校教諭一種免許状	数学、理科、工業
農学部	植物生命科学科	高等学校教諭一種免許状	理科、農業
	応用生物化学科		
	森林科学科		
	食料生産環境学科		
	動物科学科		

別表2 第61条第2項に定められた免許状の種類及び教科又は特別支援教育領域

学部	学科又は課程	免許状の種類	教科又は特別支援教育領域
人文社会科学部	人間科学課程	中学校教諭一種免許状	社会
		高等学校教諭一種免許状	公民、情報
	国際文化課程	中学校教諭一種免許状	国語、社会、英語、ドイツ語、フランス語
		高等学校教諭一種免許状	国語、地理歴史、英語、ドイツ語、フランス語
法学・経済課程	高等学校教諭一種免許状	公民	
教育学部	学校教育教員養成課程	幼稚園教諭一種免許状	
		小学校教諭一種免許状	
		中学校教諭一種免許状	国語、社会、数学、理科、技術、家庭、英語
		高等学校教諭一種免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、家庭、情報、工業、英語
		特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者に関する教育、肢体不自由者に関する教育、病弱者（身体虚弱者を含む。）に関する教育
生涯教育課程	中学校教諭一種免許状	国語、社会、保健体育	
	高等学校教諭一種免許状	国語、地理歴史、公民、保健体育	
	芸術文化課程	中学校教諭一種免許状	音楽、美術
		高等学校教諭一種免許状	音楽、美術、工芸、書道
工学部	応用化学・生命工学科	高等学校教諭一種免許状	理科、工業
	マテリアル工学科	高等学校教諭一種免許状	数学、工業
	電気電子・情報システム工学科	高等学校教諭一種免許状	数学、工業
	機械システム工学科	高等学校教諭一種免許状	理科、工業
	社会環境工学科	高等学校教諭一種免許状	理科、工業
農学部	農学生命課程	高等学校教諭一種免許状	理科、農業
	応用生物化学課程		
	共生環境課程		
	動物科学課程		

国立大学法人岩手大学大学院規則の一部を改正する規則（案）

改正後	現 行																															
第1章 総則	第1章 総則																															
(目的)	(目的)																															
第1条 国立大学法人岩手大学大学院(以下「本大学院」という。)は、学術の理論及び応用を教育研究し、国際的な学術文化の創造を目指すとともに、幅広く高度な学識と専門的な能力を備えた人材の育成を通じて、地域社会と国際社会の文化の進展に寄与することを目的とする。	第1条 国立大学法人岩手大学大学院(以下「本大学院」という。)は、学術の理論及び応用を教育研究し、国際的な学術文化の創造を目指すとともに、幅広く高度な学識と専門的な能力を備えた人材の育成を通じて、地域社会と国際社会の文化の進展に寄与することを目的とする。																															
2 本大学院は、研究科又は専攻ごとに人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。	2 本大学院は、研究科又は専攻ごとに人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を定め、公表するものとする。																															
第2章 組織	第2章 組織																															
(研究科及び課程)	(研究科及び課程)																															
第2条 本大学院に次の研究科を置く。 人文社会科学研究科 教育学研究科 工学研究科 農学研究科 連合農学研究科	第2条 本大学院に次の研究科を置く。 人文社会科学研究科 教育学研究科 工学研究科 農学研究科 連合農学研究科																															
2 人文社会科学研究科及び農学研究科の課程は、修士課程とする。	2 人文社会科学研究科、教育学研究科及び農学研究科の課程は、修士課程とする。																															
3 工学研究科の課程は、前期2年の課程及び後期3年の課程に区分する博士課程とし、前期2年の課程を「博士前期課程」、後期3年の課程を「博士後期課程」とする。ただし、博士前期課程は、これを修士課程として取り扱う。	3 工学研究科の課程は、前期2年の課程及び後期3年の課程に区分する博士課程とし、前期2年の課程を「博士前期課程」、後期3年の課程を「博士後期課程」とする。ただし、博士前期課程は、これを修士課程として取り扱う。																															
4 連合農学研究科の課程は、後期3年のみの博士課程(以下「博士課程」という。)とする。	4 連合農学研究科の課程は、後期3年のみの博士課程(以下「博士課程」という。)とする。																															
<u>5 教育学研究科の課程は、専門職大学院設置基準第2条に規定する専門職学位課程(以下「教職大学院の課程」という。)とする。</u>																																
(省 略)	(省 略)																															
(専攻)	(専攻)																															
第5条 各研究科に次の専攻を置く。	第5条 各研究科に次の専攻を置く。																															
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">研究科名</th> <th style="width: 20%;">課程</th> <th style="width: 60%;">専 攻</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">人文社会科学 研究科</td> <td rowspan="3">修士課程</td> <td>人間科学専攻</td> </tr> <tr> <td>国際文化学専攻</td> </tr> <tr> <td>社会・環境システム専攻</td> </tr> <tr> <td>教育学研究科</td> <td>教職大学院の課程</td> <td>教職実践専攻</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">工学研究科</td> <td rowspan="2">博士前期課程</td> <td>応用化学・生命工学専攻</td> </tr> <tr> <td>フロンティア材料機能工学専攻</td> </tr> </tbody> </table>	研究科名	課程	専 攻	人文社会科学 研究科	修士課程	人間科学専攻	国際文化学専攻	社会・環境システム専攻	教育学研究科	教職大学院の課程	教職実践専攻	工学研究科	博士前期課程	応用化学・生命工学専攻	フロンティア材料機能工学専攻	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">研究科名</th> <th style="width: 20%;">課程</th> <th style="width: 60%;">専 攻</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">人文社会科学 研究科</td> <td rowspan="3">修士課程</td> <td>人間科学専攻</td> </tr> <tr> <td>国際文化学専攻</td> </tr> <tr> <td>社会・環境システム専攻</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">教育学研究科</td> <td rowspan="2">修士課程</td> <td>学校教育実践専攻</td> </tr> <tr> <td>教科教育専攻</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">工学研究科</td> <td rowspan="2">博士前期課程</td> <td>応用化学・生命工学専攻</td> </tr> <tr> <td>フロンティア材料機能工学専攻</td> </tr> </tbody> </table>	研究科名	課程	専 攻	人文社会科学 研究科	修士課程	人間科学専攻	国際文化学専攻	社会・環境システム専攻	教育学研究科	修士課程	学校教育実践専攻	教科教育専攻	工学研究科	博士前期課程	応用化学・生命工学専攻	フロンティア材料機能工学専攻
研究科名	課程	専 攻																														
人文社会科学 研究科	修士課程	人間科学専攻																														
		国際文化学専攻																														
		社会・環境システム専攻																														
教育学研究科	教職大学院の課程	教職実践専攻																														
工学研究科	博士前期課程	応用化学・生命工学専攻																														
		フロンティア材料機能工学専攻																														
研究科名	課程	専 攻																														
人文社会科学 研究科	修士課程	人間科学専攻																														
		国際文化学専攻																														
		社会・環境システム専攻																														
教育学研究科	修士課程	学校教育実践専攻																														
		教科教育専攻																														
工学研究科	博士前期課程	応用化学・生命工学専攻																														
		フロンティア材料機能工学専攻																														

		電気電子・情報システム工学専攻			電気電子・情報システム工学専攻
		機械システム工学専攻			機械システム工学専攻
		社会環境工学専攻			社会環境工学専攻
		デザイン・メディア工学専攻			デザイン・メディア工学専攻
		金型・鋳造工学専攻			金型・鋳造工学専攻
	博士後期課程	フロンティア物質機能工学専攻		博士後期課程	フロンティア物質機能工学専攻
		電気電子・情報システム工学専攻			電気電子・情報システム工学専攻
		機械・社会環境システム工学専攻			機械・社会環境システム工学専攻
		デザイン・メディア工学専攻			デザイン・メディア工学専攻
農学研究科	修士課程	農学生命専攻		農学研究科	農学生命専攻
		応用生物化学専攻			応用生物化学専攻
		共生環境専攻			共生環境専攻
		動物科学専攻			動物科学専攻
		バイオフィロンティア専攻			バイオフィロンティア専攻
連合農学研究科	博士課程	生物生産科学専攻		連合農学研究科	生物生産科学専攻
		生物資源科学専攻			生物資源科学専攻
		寒冷圏生命システム学専攻			寒冷圏生命システム学専攻
		生物環境科学専攻			生物環境科学専攻

(教員組織)

第6条 本大学院（連合農学研究科を除く。）の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）又は授業を担当する教員は、本学の教授、准教授及び助教並びに客員教授、客員准教授、特命教授及び特命准教授とし、各研究科の教育研究上の目的を達成するため、授与する学位の種類及び分野に応じ、一の研究科を専ら担当するものとする。ただし、必要あるときは、このほか所定の資格基準に基づき、他の者を第7条第1項に規定する研究科教授会の議を経て学長が委嘱することができる。

- 連合農学研究科における授業並びに研究指導及び研究指導の補助を担当する教員は、当該研究科の専任の教員並びに客員教授及び客員准教授並びに本学の教育学部、工学部及び農学部、弘前大学の農学生命科学部及び遺伝子実験施設、山形大学の農学部並びに帯広畜産大学の畜産学部及び大学院畜産学研究科に所属する専任の教員であって、当該研究科における研究指導を担当する資格を有するもの（以下「連合農学研究科の教員」という。）のうちから指名された者とする。
- 前項に規定するもののほか連合農学研究科の教員

(教員組織)

第6条 本大学院（連合農学研究科を除く。）の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を担当する教員は、本学の教授、准教授及び助教並びに客員教授及び客員准教授とし、各研究科の教育研究上の目的を達成するため、授与する学位の種類及び分野に応じ、一の研究科を専ら担当するものとする。ただし、必要あるときは、このほか所定の資格基準に基づき、他の者を第7条第1項に規定する研究科教授会の議を経て学長が委嘱することができる。

- 連合農学研究科における授業並びに研究指導及び研究指導の補助を担当する教員は、当該研究科の専任の教員並びに客員教授及び客員准教授並びに本学の教育学部、工学部及び農学部、弘前大学の農学生命科学部及び遺伝子実験施設、山形大学の農学部並びに帯広畜産大学の畜産学部及び大学院畜産学研究科に所属する専任の教員であって、当該研究科における研究指導を担当する資格を有するもの（以下「連合農学研究科の教員」という。）のうちから指名された者とする。
- 前項に規定するもののほか連合農学研究科の教員

組織については、連合農学研究科において、別に定める。

- 4 博士後期課程又は博士課程を担当する教員は、教育研究上支障を生じない場合には、一個の専攻に限り、修士課程、博士前期課程及び教職大学院の課程を担当する教員のうち博士後期課程又は博士課程が定める資格を有するものがこれを兼ねることができる。

(省 略)

### 第3章 収容定員等、標準修業年限及び在学期間

(収容定員等)

第11条 研究科の専攻別収容定員等は、次の表のとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	入学定員	収容定員
人文社会科学 研究科	修士課程	人間科学専攻	8名	16名
		国際文化学専攻	4名	8名
		社会・環境システム専攻	4名	8名
		計	16名	32名
教育学研究 科	教職 大学院の 課程	教職実践専攻	16名	32名
		計	32名	32名
工学研究 科	博士 前期 課程	※応用化学・生命工学専攻	25名	50名
		フロンティア材料機能工学専攻	30名	60名
		電気電子・情報システム工学専攻	40名	80名
		機械システム工学専攻	30名	60名
		社会環境工学専攻	20名	40名
		デザイン・メディア工学専攻	10名	20名
	金型・鋳造工学専攻	10名	20名	
	計	165名	330名	
	博士 後期 課程	※フロンティア物質機能工学専攻	9名	27名
		電気電子・情報システム工学専攻	4名	12名
機械・社会環境システム工学専攻		4名	12名	
デザイン・メディア工学専攻		3名	9名	
計	20名	60名		
農学研究 科	修士 課程	農学生命専攻	20名	40名
		応用生物化学専攻	15名	30名
		共生環境専攻	16名	32名
		動物科学専攻	8名	16名
		※バイオフィロンティア専攻	8名	16名
計	67名	134名		
連合農学 研究科	博士 課程	※生物生産科学専攻	8名	24名
		※生物資源科学専攻	10名	30名
		※寒冷圏生命システム学専攻	6名	18名
		※生物環境科学専攻	8名	24名
計	32名	96名		

備考 ※印を冠するものは、入学定員の一部について連携大学院方式を実施する専攻である。

組織については、連合農学研究科において、別に定める。

- 4 博士後期課程又は博士課程を担当する教員は、教育研究上支障を生じない場合には、一個の専攻に限り、修士課程又は博士前期課程を担当する教員のうち博士後期課程又は博士課程が定める資格を有するものがこれを兼ねることができる。

(省 略)

### 第3章 収容定員等、標準修業年限及び在学期間

(収容定員等)

第11条 研究科の専攻別収容定員等は、次の表のとおりとする。

研究科名	課程	専攻名	入学定員	収容定員
人文社会 科学研究 科	修士 課程	人間科学専攻	8名	16名
		国際文化学専攻	4名	8名
		社会・環境システム専攻	4名	8名
		計	16名	32名
教育学研究 科	修士 課程	学校教育実践専攻	12名	24名
		教科教育専攻	20名	40名
		計	32名	64名
工学研究 科	博士 前期 課程	※応用化学・生命工学専攻	25名	50名
		フロンティア材料機能工学専攻	30名	60名
		電気電子・情報システム工学専攻	40名	80名
		機械システム工学専攻	30名	60名
		社会環境工学専攻	20名	40名
		デザイン・メディア工学専攻	10名	20名
	金型・鋳造工学専攻	10名	20名	
	計	165名	330名	
	博士 後期 課程	※フロンティア物質機能工学専攻	9名	27名
		電気電子・情報システム工学専攻	4名	12名
機械・社会環境システム工学専攻		4名	12名	
デザイン・メディア工学専攻		3名	9名	
計	20名	60名		
農学研究 科	修士 課程	農学生命専攻	20名	40名
		応用生物化学専攻	15名	30名
		共生環境専攻	16名	32名
		動物科学専攻	8名	16名
		※バイオフィロンティア専攻	8名	16名
計	67名	134名		
連合農学 研究科	博士 課程	※生物生産科学専攻	8名	24名
		※生物資源科学専攻	10名	30名
		※寒冷圏生命システム学専攻	6名	18名
		※生物環境科学専攻	8名	24名
計	32名	96名		

備考 ※印を冠するものは、入学定員の一部について連携大学院方式を実施する専攻である。

2 人文社会科学研究科社会・環境システム専攻については、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第3条第3項の規定に基づく標準修業年限を1年以上2年未満とするコース（以下「1年制コース」という。）を含むものとする。

（標準修業年限）

第12条 修士課程、博士前期課程及び教職大学院の課程の標準修業年限は2年とし、博士後期課程及び博士課程の標準修業年限は3年とする。ただし、人文社会科学研究科社会・環境システム専攻の1年制コースの標準修業年限は、1年とする。

（在学期間）

第13条 在学期間は、標準修業年限の2倍を超えることができない。

#### 第4章 修士課程、博士課程、博士前期課程及び博士後期課程の教育課程

（教育方法）

第14条 本大学院（教職大学院の課程を除く。以下この章において同じ。）の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

（省略）

#### 第4章の2 教職大学院の課程の教育課程

（教育課程）

第21条の2 教職大学院の課程は、教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設し、「理論と実践の融合」を具現化するための体系的な教育課程を編成するものとする。

（授業の方法等）

第21条の3 教職大学院の課程は、その目的を達成し得る実践的な教育を行うよう事例研究、現地調査又は双方向若しくは多方向に行われる討論若しくは質疑応答その他の適切な方法により授業を行うなど適切に配慮しなければならない。

（履修方法等）

第21条の4 前条に規定する授業科目の内容、単位数及び履修方法の内容及び履修方法は、各研究科において定める。

（一の授業科目について二以上の方法の併用により行う場合の単位の計算基準）

第21条の5 教職大学院の課程は、一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、国立大学法人岩手大学学則（以下「大学学則」という。）第38条第1項各号に規定する基準を考慮して別に定める時間の授業をもって1単位とするものとする。

（成績評価基準等の明示等）

第21条の6 教職大学院の課程は、学生に対して授業の方法及び内容、1年間の授業をあらかじめ明示するものとする。

2 学修の成果及び修了の認定に当たっては、客観性及

2 人文社会科学研究科社会・環境システム専攻については、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第3条第3項の規定に基づく標準修業年限を1年以上2年未満とするコース（以下「1年制コース」という。）を含むものとする。

（標準修業年限）

第12条 修士課程及び博士前期課程の標準修業年限は2年とし、博士後期課程及び博士課程の標準修業年限は3年とする。ただし、人文社会科学研究科社会・環境システム専攻の1年制コースの標準修業年限は、1年とする。

（在学期間）

第13条 在学期間は、標準修業年限の2倍を超えることができない。

#### 第4章 教育課程

（教育方法）

第14条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び研究指導によって行うものとする。

（省略）



び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修)

第21条の7 教職大学院の課程は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(履修科目の登録の上限)

第21条の8 教職大学院の課程は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるものとする。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第21条の9 教育上有益と認めるときは、学生が他の大学院において履修した授業科目について修得した単位を、本教職大学院が修了要件として定める48単位以上の単位数の2分の1を超えない範囲で当該教職大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、第35条の規定による留学の場合に準用する。

(入学前の既修得単位の認定)

第21条の10 教育上有益と認めるときは、学生が本教職大学院に入学する前に本大学院又は他の大学院において履修した授業科目について修得した単位(大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第15条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本教職大学院に入学した後の本教職大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項により修得したものとみなすことのできる単位数は、第34条に規定する編入学及び転学の場合を除き、本大学院において修得した単位以外のものについては、前条第1項の規定により本教職大学院において修得したものとみなす単位数及び次条第2項の規定により免除する単位数と合わせて本教職大学院が修了要件として定める48単位以上の単位数の2分の1を超えないものとする。

(長期にわたる教育課程の履修)

第21条の11 学生(1年制コースに在学する学生を除く。)が、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

(課程の修了及び学位の授与)

第21条の12 教職大学院の課程の修了要件は、教職大学院の課程に2年以上在学し、48単位以上を修得することとする。

2 前2項に規定するもののほか、学位の授与については、別に定める。

(省 略)

第6章 入学、休学、復学、退学、再入学、編

(省 略)

第6章 入学、休学、復学、退学、再入学、編

<p>入学、転学、留学、表彰、除籍及び懲戒</p> <p>(入学時期)</p> <p>第23条 入学の時期は、毎年4月又は10月とする。 (<u>修士課程、博士前期課程及び教職大学院の課程の入学資格</u>)</p> <p>第24条 <u>修士課程、博士前期課程及び教職大学院の課程</u>に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。</p> <p>(省略)</p> <p>(休学)</p> <p>第30条 疾病その他の事由により、3月以上修学できない者は、休学願を提出し、学長の許可を得るものとする。</p> <p>2 疾病のため、修学が不相当と認められる者に対して、学長は、休学を命ずることができる。</p> <p>3 第1項の休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、願い出により引き続き休学することができる。</p> <p>4 休学期間は、<u>修士課程、博士前期課程及び教職大学院の課程</u>にあつては通算して2年(1年制コースにあつては1年)、博士後期課程及び博士課程にあつては通算して3年を超えることができない。</p> <p>(省略)</p>	<p>入学、転学、留学、表彰、除籍及び懲戒</p> <p>(入学時期)</p> <p>第23条 入学の時期は、毎年4月又は10月とする。 (<u>修士課程及び博士前期課程の入学資格</u>)</p> <p>第24条 <u>修士課程及び博士前期課程</u>に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。</p> <p>(省略)</p> <p>(休学)</p> <p>第30条 疾病その他の事由により、3月以上修学できない者は、休学願を提出し、学長の許可を得るものとする。</p> <p>2 疾病のため、修学が不相当と認められる者に対して、学長は、休学を命ずることができる。</p> <p>3 第1項の休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の事情がある場合は、願い出により引き続き休学することができる。</p> <p>4 休学期間は、<u>修士課程及び博士前期課程</u>にあつては通算して2年(1年制コースにあつては1年)、博士後期課程及び博士課程にあつては通算して3年を超えることができない。</p> <p>(省略)</p>
---	--

<p>附 則</p> <p>(施行期日)</p> <p>1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。 (経過規定)</p> <p>2 この学則による改正前の教育学研究科修士課程の学校教育実践専攻及び教科教育専攻は、改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第5条の規定にかかわらず、平成28年3月31日に当該専攻に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。</p> <p>3 この学則による改正後の国立大学法人岩手大学大学院学則第11条の規定にかかわらず平成28年度の学生の収容定員は、次のとおりとする。</p>			
研究科名	課程	専攻名	平成28年度
教育学研究科	教職大学院の課程	教職実践専攻	16名
	修士課程	学校教育実践専攻	12名
		教科教育専攻	20名
		計	48名

別表 第22条第2項に定められた免許状の種類及び  
教科又は特別支援教育領域

研究 科名	課 程	専 攻 名	コー ス名	免許状の種類	教科又は特別支 援教育領域
人文 社会 科学 研究 科	修 士 課 程	人間科学専攻		中学校教諭 専修免許状	社会
				高等学校教諭 専修免許状	公民
		国際文化学専攻		中学校教諭 専修免許状	国語、社会、英語、 ドイツ語、フランス語
				高等学校教諭 専修免許状	国語、地理歴史、 英語、ドイツ語、 フランス語
		社会・環境 システム専攻		中学校教諭 専修免許状	社会
				高等学校教諭 専修免許状	公民
教育 学研 究科	教 職 大 学 院 の 課 程	教職実践専攻		幼稚園教諭 専修免許状	-
				小学校教諭 専修免許状	
				中学校教諭 専修免許状	国語、社会、数学、 理科、音楽、美術、 保健体育、保健、 技術、家庭、英語
				高等学校教諭 専修免許状	国語、地理歴史、 公民、数学、理科、 音楽、美術、工芸、 書道、保健体育、 保健、家庭、情報、 農業、工業、商業、 水産、英語、ドイ ツ語、フランス 語、中国語
				特別支援学校 教諭専修免許 状	知的障害者に関する 教育、肢体不自由者 に関する教育、病弱 者（身体虚弱者を含 む。）に関する教育
工学 研究 科	博 士 前 期 課 程	応用化学・生命工 学専攻		高等学校教諭 専修免許状	工業
		フロンティア材 料機能工学専攻			
		電気電子・情報シ ステム工学専攻			
		機械システム工 学専攻			
		社会環境工学 専攻			
農学 研究 科	修 士 課 程	農学生命専攻		高等学校教諭 専修免許状	農業
		応用生物化学 専攻			理科

別表 第22条第2項に定められた免許状の種類及び  
教科又は特別支援教育領域

研究 科名	課 程	専 攻 名	コー ス名	免許状の種類	教科又は特別支 援教育領域		
人文 社会 科学 研究 科	修 士 課 程	人間科学専攻		中学校教諭 専修免許状	社会		
				高等学校教諭 専修免許状	公民		
		国際文化学専攻		中学校教諭 専修免許状	国語、社会、英語、 ドイツ語、フランス語		
				高等学校教諭 専修免許状	国語、地理歴史、 英語、ドイツ語、 フランス語		
		社会・環境 システム専攻		中学校教諭 専修免許状	社会		
				高等学校教諭 専修免許状	公民		
教育 学研 究科	修 士 課 程	学校教育実践 専攻		幼稚園教諭 専修免許状	-		
				小学校教諭 専修免許状			
				中学校教諭 専修免許状	国語、社会、数学、 理科、音楽、美術、 保健体育、技術、 家庭、英語		
				高等学校教諭 専修免許状	国語、地理歴史、 公民、数学、理科、 音楽、美術、工芸、 書道、保健体育、 保健、家庭、英語		
				特別支援学校 教諭専修免許 状	知的障害者に関する 教育、肢体不自由者 に関する教育、病弱 者（身体虚弱者を含 む。）に関する教育		
		教科教育専攻		社会 科 教 育 コ ー ス		幼稚園教諭 専修免許状	
						小学校教諭 専修免許状	
						中学校教諭 専修免許状	国語
						高等学校教諭 専修免許状	国語、書道
数学 教 育 コ ー ス				小学校教諭 専修免許状			
				中学校教諭 専修免許状	社会		
				高等学校教諭 専修免許状	地理歴史、公民		
				幼稚園教諭 専修免許状			
				小学校教諭			



# 岩手大学教授会通則

(平成27年2月24日制定)

## (趣旨)

第1条 この通則は、岩手大学学則第23条第2項及び岩手大学大学院学則第7条第2項の規定に基づき、学部又は研究科（大学院連合農学研究科を除く。以下「学部等」という。）の教授会に関し、必要な事項を定める。

## (構成)

第2条 教授会は、当該学部等の専任の教授及び准教授（以下「構成員」という。）をもって構成する。

- 2 教授会には、教育研究施設等の専任の教員を加えることができる。
- 3 前2項に規定する者のほか、当該学部等の定めるところにより、講師及び助教を当該教授会に加えることができる。

## (審議事項等)

第3条 教授会は、当該学部等の次に掲げる教育研究に関する重要な事項について審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べる。

- 一 学生の入学、卒業及び課程の修了に関すること。
  - 二 学位の授与に関すること。
  - 三 その他教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定める事項
- 2 前項第3号に関する事項は、別に定める。
- 3 前2項に掲げるもののほか、教授会は当該学部等の教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

## (議長)

第4条 教授会に議長を置き、当該学部等の学部長又は研究科長（以下「学部長等」という。）をもって充てる。

- 2 議長は、教授会を主宰する。
- 3 学部長等に事故があるときは、副学部長、副研究科長又は学部長等があらかじめ指名する構成員がその職務を代行する。

## (会議)

第5条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

- 2 前項の構成員には、公務旅行者、病気休暇者、退職者、育児休業者、介護休業者、自己啓発等休業、配偶者転勤等同伴休業者及びサバティカル研修者を含まないものとする。

(議決)

- 第6条 教授会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 2 前項の規定にかかわらず、研究科教授会における学位授与の可否の議決は、岩手大学学位規則第12条の規定によるものとする。
- 3 第1項の規定にかかわらず、特別の必要があると認められる議事については、半数以上であって当該学部等の定める割合以上の多数をもって議決することができる。

(開催)

- 第7条 教授会は、原則として、毎月1回開催するものとする。ただし、臨時に会議を休会することができる。
- 2 学部長等が必要と認めたとき、又は構成員総数の3分の1以上の者が議題を附し請求があったときは、臨時に会議を招集することができる。

(構成員以外の者の出席)

- 第8条 議長が必要と認めたときは、教授会の承認を得て、構成員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。ただし、この者は、可否の数に加わることができない。

(運営会議等)

- 第9条 教授会は、教授会の構成員のうちの一部の者をもって構成する運営会議、代議員会、専門委員会等（以下「運営会議等」という。）を置くことができる。
- 2 教授会は、運営会議等の議決をもって、当該教授会の議決とすることができる。
- 3 運営会議等に関し必要な事項は、当該教授会が別に定める。

(事務)

- 第10条 教授会の事務は、当該学部等の事務を所掌する事務部において処理する。

(雑則)

- 第11条 この通則に定めるもののほか、教授会の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この通則は、平成27年4月1日から施行する。

# 岩手大学大学院教育学研究科規則（案）

（平成16年4月1日制定）

## （趣旨）

第1条 この規則は、国立大学法人岩手大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）、岩手大学学位規則（以下「学位規則」という。）及び岩手大学教授会通則（以下「通則」という。）に基づき、岩手大学大学院教育学研究科（以下「研究科」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

## （目的）

第1条の2 本研究科は、学校教育に関する「理論と実践の融合」の理想を掲げ、これからの学校教育をリードする専門的力量を備えた管理職及びミドルリーダー教員を養成するとともに、新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員を養成することを目的とする。

## （専攻）

第2条 研究科に次のとおり専攻を置く。

### 教職実践専攻

学校マネジメント力開発プログラム

授業力開発プログラム

特別支援教育力開発プログラム

子ども支援力開発プログラム

## （研究科教授会）

第3条 教育学研究科教授会（以下「研究科教授会」という。）は、通則第2条に基づき、研究科の専任の教授及び准教授（以下「構成員」という。）をもって組織する。

2 前項に規定する者のほか、学部の兼任教員を加える。

## （審議事項）

第4条 研究科教授会は、通則第3条に定めるもののほか、次の事項を審議する。

- 一 研究科の授業科目に関すること。
- 二 研究科の専攻に関すること。
- 三 他の大学院の授業科目の履修等に関すること。
- 四 学生の表彰及び懲戒に関すること。
- 五 学生の修学等の支援に関すること。
- 六 大学院研究生に関すること。
- 七 研究科担当教員の選考に関すること。
- 八 学生の募集要項に関すること。
- 九 規則の制定及び改廃に関すること。
- 十 その他研究科に関する重要事項

2 前項各号に掲げる事項のうち、第1号、第3号、第5号、第6号、第8号に掲げる事項については、前項の規定にかかわらず、第6条の定めるところにより研究科教授会が設置した運営委員会等の審議・議決をもって、研究科教授会の議決とすることができる。

3 前項の定めるところにより関係委員会において審議・議決した事項は、研究科教授会に報告するものとする。

(入学)

第5条 入学手続及び入学者選抜方法は、研究科教授会の議を経て学長がこれを定める。

第6条 入学者の選考は、研究科教授会において行う。

(教育方法)

第7条 研究科の教育は、授業科目の授業及び教育実践研究報告書の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)により行う。

- 2 研究指導を行うため、学生ごとに主任指導教員(以下「指導教員」という。)を置き、指導教員の決定は研究科教授会が行う。
- 3 授業及び研究指導は、研究科教授会が教育上特に必要があると認めた場合、別に指定する特別の時間又は時期に行うことができる。
- 4 前各項に関して必要な事項は、別に定める。

(授業科目及び単位数)

第8条 研究科におけるプログラム別の授業科目及び単位数は、別表のとおりとする。

- 2 学生は、履修しようとする授業科目を毎学期の初めに指導教員の承認を得て研究科長に届け出なければならない。
- 3 指導教員が必要と認めたときは、研究科教授会の議を経て他の研究科又は学部の課程による授業科目を指定して、これを履修させることがある。

(他の大学院の授業科目の履修等)

第9条 研究科が教育上有益と認めるときは、他の大学の大学院との協議に基づき、学生に当該大学院の授業科目を履修させることができる。

- 2 学生は、他の大学院の授業科目を履修しようとするときは、指導教員を経て、研究科長の許可を得なければならない。
- 3 前2項の規定により修得した単位は10単位を超えない範囲で、研究科において修得したものとみなすことができる。
- 4 前項の規定は、第13条の規定による留学の場合に準用する。
- 5 前各項に関して必要な事項は、別に定める。

(他の大学院等における研究指導)

第10条 専攻が教育上有益と認めるときは、他の大学院等との協議に基づき、学生に当該大学院等における研究指導を受けさせることができる。

- 2 学生は、他の大学院等で研究指導を受けようとするときは、指導教員を経て、専攻長の許可を得なければならない。
- 3 前各項に関して必要な事項は、別に定める。

(留学)

第11条 研究科が教育上有益と認めるときは、外国の大学院との協議に基づき、学生が当該大学院に留学することを許可することができる。

- 2 学生は、外国の大学院に留学しようとするときは、研究科長を経て、学長の許可を得なければならない。



(試験)

第12条 単位修得のための試験は、授業完了した科目について学期末に行う。

(教育実践研究報告書)

第13条 学生は、在学中に特定の課題についての研究の成果のうち教育実践研究のまとめによるもの（以下「教育実践研究報告書」という。）を研究科長に提出しなければならない。

(最終試験)

第14条 最終試験は、所定の単位を修得し、前条に定める教育実践研究報告書を提出した者について、各分野において行う。その期日及び試験の方法については、あらかじめ公示する。

(特別聴講学生)

第15条 他の大学院（外国の大学院を含む。）の学生で、研究科の授業科目を履修しようとする者があるときは、当該大学院との協議に基づき、特別聴講学生として受け入れることがある。

2 前項に関して必要な事項は、別に定める。

(特別研究学生)

第16条 他の大学院（外国の大学院を含む。）の学生で、研究科において研究指導を受けようとする者があるときは、当該大学院との協議に基づき、特別研究学生として受け入れることがある。

2 前項に関して必要な事項は、別に定める。

(大学院研究生)

第17条 研究科において、特定の事項の研究を志願する者があるときは、研究科教授会の議を経て、大学院研究生として受け入れることができる。

2 前項に関して必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第18条 研究科に関する事務は、事務部及び学務課において処理する。

(規則の改廃)

第19条 この規則は、研究科教授会において出席した構成員の3分の2以上の議決をもって改廃できるものとする。

(補則)

第20条 この規則に定めるもののほか、研究科教授会に関し必要な事項は、研究科教授会が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 この規則は、平成28年4月1日以後の入学者から適用し、平成27年3月31日以前の入学者については、なお従前の例による。

別表（第8条関係）

教職実践専攻

専攻共通科目

授 業 科 目	単位数
特色あるカリキュラムづくりの理論と実際	2
学習指導要領とカリキュラム開発	2
学力の向上と学習意欲	2
ICT活用教育の実践と課題	2
学校カウンセリングの理論と実践	2
通常学級における特別支援教育の実践と課題	2
心理教育的援助サービスの理論と実践	2
学校経営の実践と課題	2
岩手の教育課題	2
専門職としての教員の在り方とその力量形成	2

学校マネジメント力開発プログラム

授 業 科 目	単位数
学校マネジメントの理論と実践	2
いわての復興教育の実践と課題	2
学校トラブル処理の実践演習	2
教職員の職能成長に資する学校経営の実践と課題	2
学校評価の取組と学校改善の実践演習	2

授業力開発プログラム

授 業 科 目	単位数
教科の指導と評価の実践研究	2
授業の構想と教材研究	2
小学校英語の実践と課題	2
国語科教育の実践と課題	2
社会科教育の実践と課題	2
算数・数学科教育の実践と課題	2
理科教育の実践と課題	2
英語科教育の実践と課題	2
音楽科教育の実践と課題	2
図工科・美術科教育の実践と課題	2
体育・保健体育科教育の実践と課題	2
家庭科教育の実践と課題	2
技術科教育の実践と課題	2

道徳教育の実践と課題	2
生活科・総合学習の実践と課題	2

#### 子ども支援力開発プログラム

授 業 科 目	単位数
子ども支援のための学校臨床心理学	2
発達援助の理論と実践	2
生徒指導・教育相談の理論と実践	2
学校カウンセリングの技法	2
生徒指導・教育相談の事例研究	2
学習支援のための教育心理学	2

#### 特別支援教育力開発プログラム

授 業 科 目	単位数
特別支援学校の実践力Ⅰ	2
特別支援学校の実践力Ⅱ	2
特別支援教育授業論Ⅰ	2
特別支援教育授業論Ⅱ	2
特別支援教育授業論Ⅲ	2
特別支援教育におけるキャリア教育	2
特別支援教育における連携	2
特別支援心理教育アセスメント	2
通常学級における特別支援教育	2

#### 実習科目

授 業 科 目	単位数
学校マネジメント力開発実習	3
授業力開発実習	4
子ども支援力開発実習	3
特別支援教育力開発実習Ⅰ	10
特別支援教育力開発実習Ⅱ	7

#### リフレクション科目

授 業 科 目	単位数
教育実践リフレクションⅠ	1
教育実践リフレクションⅡ	1
教育実践リフレクションⅢ	1
教育実践リフレクションⅣ	1